

平成 23 年度

川崎市立小学校
学習状況調査
報告書

川崎市教育委員会・川崎市立小学校長会

はじめに

川崎市教育委員会
教育長 金井 則夫

今年度より新しい学習指導要領が全面実施となりました。新しい学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得、思考力・判断力・表現力等の能力の育成及び学習意欲の向上の重要性が述べられています。川崎市におきましても、かわさき教育プランでは、読み・書き・計算等、基礎・基本の徹底や思考力・判断力・表現力等を向上させる学習指導の充実等、確かな学力の育成を掲げているところです。

川崎市立小学校学習状況調査は、かわさき教育プランの「学校の教育力を高め、確かな学力を育成する」という重点施策に則り、平成 17 年度に始まり、本年度は 7 回目の実施となります。本年度は 5 月 10 日に実施され、市内の小学校 5 年生約 11,400 人が調査の対象となりました。

かわさき教育プランでは、本調査の目的として次の 3 点を掲げています。

- ・学校や教員が子どもたちの学習状況を正確に把握することにより、指導方法や教育課程の検証・改善を図ること。
- ・子どもと保護者に学習状況を伝え、一人ひとりの子どもの学習に対する課題を明確にし、子どもが学習に取り組む態度や家庭での学習の在り方を改善することに役立てること。
- ・教育委員会が各学校の教育課題をより正確に把握することにより、それぞれの学校を効果的・効率的に支援すること。

本書は調査結果の概要を、設問ごとのねらい、正答率、解答の状況、誤答の分析等でまとめるとともに、今後の学習指導の改善の視点を示しております。また、学習意識については、子どもの生活や学習への意識等について示すとともに、一部の調査についてのクロス集計を記載いたしました。各学校におかれましては、自校の結果を分析し、教育課程や指導方法の改善をすすめていく際に、本書をご活用いただきたいと考えております。

最後になりましたが、調査の運営・実施にあたりましてご尽力いただきました小学校学習状況調査研究会議をはじめとする小学校長会の皆様に厚く御礼申し上げます。

学習状況調査の実施にあたって

川崎市立小学校長会
会長 菊池 眞

本年度より、新しい学習指導要領が全面実施となりました。新しい学習指導要領では、知識基盤社会を担う子どもたちに、確かな学力、豊かな心、健やかな体からなる「生きる力」を育むことの重要性が示されています。そして、確かな学力を育成するために、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得することと思考力・判断力・表現力等を育成することの重要性とバランスを重視することが述べられております。各学校におかれましては、このような新しい学習指導要領の趣旨の実現に向けた教育活動を実施しているところであると確信しております。

川崎市立小学校学習状況調査は、かわさき教育プランに基づき、確かな学力の育成を目指し、平成 17 年度より実施されております。国語、算数及び学習意識について、市内の小学校に在籍する 5 年生全員を対象として実施しております。調査の目的は各学校が一人ひとりの子どもの学力や学習状況を的確に把握し、教育課程の編成や指導方法の検証・改善に役立てること、子どもと保護者に学習状況を伝え、家庭での学習習慣の確立に役立てること等が挙げられております。

川崎市立小学校学習状況調査報告書は、このような調査の目的に則し、調査の分析結果等を記載しております。各学校におかれましては、調査の目的をご理解いただき、自校の状況を把握し、教育課程の編成等の検証・改善のための資料としてご活用ください。

なお、調査問題及び報告書の作成につきましては、川崎市の子どもたちの状況に寄り添うよう、川崎市立小学校国語教育研究会、算数教育研究会にご協力いただいております。厚く御礼申し上げます。また、調査の実施に際しまして、ご尽力いただきました川崎市教育委員会・川崎市総合教育センター並びに小学校学習状況調査研究会議の皆様へ深く感謝申し上げます。

目 次

I 調査の概要

1. 調査の目的	5
2. 調査の内容	5
3. 調査の対象	5
4. 調査実施日及び調査対象教科・人数	5
(1) 調査実施日	5
(2) 調査対象教科・人数	5

II 調査結果の概要

1. 国語	6
(1) 作問にあたって	6
(2) 領域ごとの結果	6
(3) 出題・観点等一覧	7
(4) 大問ごとの分析と考察	8
(5) 今後の指導にあたって	20
2. 算数	22
(1) 作問にあたって	22
(2) 領域ごとの結果	22
(3) 出題・観点等一覧	23
(4) 大問ごとの分析と考察	24
(5) 今後の指導にあたって	44
3. 生活や学習についてのアンケート	48
調査の概要	48
調査結果と分析	49
単純集計	49
クロス集計	57
資料 調査結果集計表	66

III 資料編

国語（問題用紙・聞き取り問題原稿・解答用紙）	
算数（問題用紙・解答用紙）	

I 調査の概要

1. 調査の目的

全市的な規模で児童の学習状況を調査することにより、学習指導上の問題点及び改善点を明らかにする。その結果を、各学校においては、今後の学習指導法の改善や教育課程編成の工夫等、児童の基礎学力の向上に役立てる。

2. 調査の内容

○国語・算数

調査の目的に基づき、学習指導要領に定める第4学年までの内容のうち、ペーパーテストで調査を行うことが適当な項目について調査を実施した。

○学習意識調査（生活や学習についてのアンケート）

児童の学習や生活に対する意識等について明らかにするために、児童を対象とする意識調査を実施した。

3. 調査の対象

市内全市立小学校の第5学年の児童

4. 調査実施日及び調査対象教科・人数

(1) 調査実施日 平成23年5月10日（火）

(2) 調査対象教科・人数

小学校第5学年	
国語	11,408人
算数	11,416人
生活や学習についてのアンケート	11,425人

II 調査結果の概要

1. 国 語

(1) 作問にあたって

- ① 基礎学力の向上に資するという本調査の目的に鑑み、基礎・基本の内容に限定して出題するよう努めた。
- ② 国語科の学習指導要領においては、目標・内容などが2学年ずつまとめて示されている。したがって本調査では主に第3学年及び第4学年で指導する内容の中から出題している。
- ③ 国語科の領域構成は「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の3領域1事項からなっている。本調査の作問にあたっては、児童の学力の状況をなるべく広い範囲において把握していくために、すべての領域から出題することとした。しかしながら、ペーパーテストによる調査で測定することのできる学力は言語能力の中でもきわめて限られた部分に過ぎないことを踏まえ、「話すこと・聞くこと」の領域のうち「話すこと」は、出題していない。また、「読むこと」の領域の中でも、音読にかかわる内容は出題できないなど、作問の内容もきわめて限定的なものにならざるを得ない。本調査は、あくまでも学力の一部を測定するものであることをご理解いただきたい。
- ④ 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕については基本的には各領域の学習を通して指導していくこととなっている。しかしながら、本調査では学力の状況を把握し易くするため、大問2及び大問3において、他領域とは独立した形で出題している。

(2) 領域ごとの結果

領域		該当する問題番号	正答率(%)
A	話すこと・聞くこと	1 (1) (2) (3)	88.0
B	書くこと	6 (1) (2) ①②③④	72.6
C	読むこと	4 (1) (2) (3) (4) (5)	75.1
		5 (1) (2) (3) (4) (5)	
D	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2 (1) ①②③④	74.9
		(2) ①②③④	
		3 (1) (2) (3) (4)	

(3) 出題・観点等一覧 (次ページ)

出題・観点等一覧

シリアル No.	問題番号		正答		観点			領域	出題のねらい	新学習指導要領	正答率(%)
	大問	中間	小問	(選択式→番号, 記述式→言葉)	話す・聞く能力	書く能力	読む能力				
1	(1)			1	◎			①話すこと・聞くこと	話の中心に気をつけて、だれがどのような提案をしているかを聞き取ることができる。	A(1)エ	92.2
2	1	(2)		3	◎			①話の内容を聞き取る	話の中心に気をつけて聞き、考えをまとめた理由を聞き取ることができる。	A(1)イ	84.5
3	(3)			4	◎				話の中心に気をつけて聞き、司会の役割を理障して聞き取ることができる。	A(1)オ	87.1
4		(1)		①		◎			第四学記当漢字を読むことができる。	伝国(1)ウ(イ)	92.7
5		(2)		②		◎		②漢字を読む	第四学記当漢字を読むことができる。	伝国(1)ウ(イ)	90.5
6		(3)		③		◎			第四学記当漢字を読むことができる。	伝国(1)ウ(イ)	89.0
7		(4)		④		◎		④伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	第四学記当漢字を読むことができる。	伝国(1)ウ(イ)	89.6
8	2	(1)		①		◎			第三学記当漢字を書くことができる。	伝国(1)ウ(イ)	88.7
9		(2)		②		◎		③漢字を書く	第三学記当漢字を書くことができる。	伝国(1)ウ(イ)	81.1
10		(3)		③		◎			第三学記当漢字を書くことができる。	伝国(1)ウ(イ)	78.7
11		(4)		④		◎			第三学記当漢字を書くことができる。	伝国(1)ウ(イ)	83.6
12	(1)			2		◎			主語・述語の関係を理解している。	伝国(1)イ(キ)	59.1
13	(2)			3		◎		④伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	ローマ字で表記された単語を読むことができ	伝国(1)ウ(ア)	60.7
14	(3)			4		◎		④言葉の学習	国語辞典を利用して調べることができる。	伝国(1)イ(カ)	74.1
15	(4)			2		◎			漢字の正しい筆順を理解している。	伝国(2)ア	60.6
16	(1)			4		◎			叙述に即して、場面の様子を読み取ることが	C(1)ウ	88.7
17	(2)			3		◎			叙述に即して、場面の移り変わりを想像しながら読むことができる。	C(1)ウ	79.5
18	(3)			2		◎		⑤物語の内容を読み取る	叙述に即して、登場人物の様子を読み取ることが	C(1)ウ	92.3
19	(4)			1		◎			叙述に即して、登場人物の様子を読み取ることが	C(1)ウ	66.5
20	(5)			せなかのどろをばらう (10字)		◎			叙述に即して、登場人物の様子や思ったことを読み取ることができる。	C(1)ウ	36.7
21	(1)			ア…おでこ イ…メロン (完答)		◎			目的に応じて、内容を大きくまとめたながら文章を読み取ることができる。	C(1)エ	87.6
22	(2)			3		◎			目的に応じて、内容を大きくまとめたながら文章を読み取ることができる。	C(1)エ	64.1
23	(3)			1		◎		⑥説明文の内容を読み取る	目的に応じて、細かい点に注意して文章を読むことができる。	C(1)エ	82.8
24	(4)			4		◎			段落の要点をとらえ、文章を読み取ることが	C(1)イ	82.2
25	(5)			2		◎			目的に応じて、細かい点に注意して文章を読むことができる。	C(1)エ	70.1
26	(1)			①ウ、②ア、③イ、④エ (完答)		◎			段落相互の関係を考え、文章の組み立てを	B(1)イ	60.3
27		(1)		(6行以上10行以内=101~200字で書く)		◎		⑦作文	目的に応じて、適切に書くことができる。	B(1)ア	73.7
28		(2)		(2段落構成で書く)		◎		②書くこと	段落と段落の続き方に注意して書くことができ	B(1)ウ	63.2
29		(3)		(「春」という言葉から思いうかべることについて書く)		◎			書く必要のある事柄を収集したり選択したりし	B(2)ウ	85.7
30		(4)		(なぜそのことが思いうかぶのか理由を書く)		◎			自分の考えが明確になるように、段落相互の関係をjえて理由を書くことができる。	B(1)ウ	80.1

※いずれも3・4年

【観点】◎…主たる観点

(4)大問ごとの分析と考察

大問 1

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中間	小問				
1		(1)		○	1	1	92.2
					2	2	3.0
					3	3	2.6
					4	4	1.2
					上記以外の解答	9	0.2
					無解答（無記入の場合）	0	0.8
2	1	(2)			1	1	0.9
					2	2	7.9
				○	3	3	84.5
					4	4	5.6
					上記以外の解答	9	0.1
					無解答（無記入の場合）	0	0.9
3		(3)			1	1	5.1
					2	2	5.2
					3	3	1.6
				○	4	4	87.1
					上記以外の解答	9	0.1
					無解答（無記入の場合）	0	1.0

[2] 出題のねらい

学習指導要領における第3学年及び第4学年の「話すこと・聞くこと」の目標は、以下の通りである。

「相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力、話の中心に気を付けて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。」

この問題では「学級全体で話し合って考えをまとめる」という言語活動に取り組む場面を取り上げ、「目的に応じ、話の中心に気を付けて聞く能力」を問うこととした。

(1)は、『1年生を迎える会』での出し物を決める」というテーマの話し合いにおいて、「誰が」、「どのような意見を述べたか」を聞き取る問題である。話の中心に気を付けて聞くことができたかを問うている。

(2)は、提案者の一人が考えを変えた理由を聞き取る問題である。話している事柄の順序など、話の組み立て方を意識しながら話の要点を聞く力を問うている。

(3)は、「司会者の役割」を聞き取る問題である。司会者の話し合いの進め方に着目して聞く力を問うている。

児童にとって、放送問題を聞いて問いに答えるという経験は少ないだろうと予想し、どの児童も経験したことのある「出し物を決める」という話し合いの場面を想定して出題した。また、大事なことは一度で聞き取る習慣を身に付けさせたいという考え

から、放送は繰り返さないことにした。

なお、「話すこと」については、その力をペーパーテストで問うことは困難であるとの理由から、今回も設問から外した。

[3] 解説

「聞くこと」の平均正答率は88.0%であり、(1)の正答率が92.2%、(2)は84.5%、(3)は87.1%と、どの問題においても良好であった。

(1)は、話の中心に気を付けて聞く能力を問うものである。正答率が高かった理由の一つとしては、問題の冒頭において、ナレーターが「誰が、どんな意見を言ったか、メモをとりながら聞きましょう。」とメモをとる観点をあらかじめ与えていることが挙げられる。

この話は『1年生を迎える会』での出し物を決める」という課題を受けて、3つの意見が出された後、皆が納得する意見にまとまる、といった組み立てになっている。児童の多くが、「誰が」、「どのような意見を述べたか」ということを、その都度的確にメモして、話し合いの流れを把握しながら聞いていたことが伺える。

(2)は、話している事柄の順序など、話の組み立て方を意識しながら話の要点を聞き取る問題である。「誰が」、「どのような意見を述べたか」という基本的な内容に加え、その理由もしっかりと把握していないと正解できない問題である。この班の話し合いでは、大森さんの「合唱」と中野さんの「リコーダーの演奏」、小田さんの「学校行事の紹介」の3つの意見を比べながら1つの案にまとめていこうとしている。小田さんの「学校行事の紹介」に対して、大森さんが「5年生全員が参加するのは難しそうだ」と意見を述べた。その後、小田さんが「わたしも5年生全員でできるもののほうがいいと思う」と意見を変えた箇所を聞き取れたかがポイントとなってくる。

解答類型別の出現率からは、選択肢2の「小学校のことを知ってほしいと思ったから。」を選んでいる児童が7.9%いたことが分かる。これは、小田さんが最初に述べた意見である。ここから、話している事柄の順序について把握しておらず、メモもとれていなかったものと考えられる。

メモがとれない理由として、一つのことを詳細に書き過ぎたり、文が長過ぎたりするためにメモが追いつかなくなるということや、書くことに夢中になって大事な言葉を聞き逃してしまうということが考えられる。大切な事柄を判断し、短い言葉で的確にメモする、といった指導が求められる。国語科の授業以外の場面（例えば、他教科における話し合い、インタビュー活動、見学）においても、メモをとる活動を積極的に取り入れていきたい。

(3)は、「司会者の役割」を問うものである。司会者は話し合いの中で、提案を一回一回確認したり、また途中で提案されている意見を繰り返したりしながら話し合いを進めている。よって、選択肢4の「提案を整理しながら、話し合いを先に進めた。」が正解である。

新しい学習指導要領の第3学年及び第4学年では、「話すこと・聞くこと」の内容①指導事項の「お互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。」といった司会に関する内容が新たに加わった。そのことから分かるように、さまざまな場面で活かされるその役割は今後ますます重要になってくる。メモをとる活動と同様に、国語科の授業以外の場面でも、司会の役割とその方法、工夫について学んでいくことが大事である。学級活動や委員会活動、日常の少人数での話し合いなど、さまざまな場面を通して、意図的に指導していきたい。

大問 2

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)	
No	大問	中間	小問					
4	2	(1)	①	○ いち	1		92.7	
				上記以外の解答	9		4.1	
				無解答（無記入の場合）	0		3.2	
5			②	○ しゅうい	1		90.5	
				上記以外の解答	9		6.0	
				無解答（無記入の場合）	0		3.5	
6			③	○ たば	1		89.0	
				そく	2		0.8	
				上記以外の解答	9		4.7	
7			④	○ あらそ	1		89.6	
				たたか	2		3.4	
	上記以外の解答	9			5.4			
8	(2)	①	○ 洋服	1		58.7		
			「洋」だけが○だった場合	2		5.4		
			「服」だけが○だった場合	3		16.7		
			上記以外の解答	9		8.2		
			無解答（無記入の場合）	0		11.1		
9		②	○ 予定	1		81.1		
			「予」だけが○だった場合	2		4.2		
			「定」だけが○だった場合	3		4.1		
			上記以外の解答	9		2.2		
			無解答（無記入の場合）	0		8.4		
10		③	○ 緑	1		78.7		
			「へん」部分だけが○だった場合	2		6.8		
			「つくり」部分だけが○だった場合	3		2.0		
			上記以外の解答	9		4.2		
			無解答（無記入の場合）	0		8.3		
11		④	○ 拾う	1		63.6		
			「拾」は書けているが送り仮名が未記入あるいは間違っていた場合	2		1.9		
	上記以外の解答		9		17.6			
	無解答（無記入の場合）		0		16.9			

[2] 出題のねらい

学習指導要領における漢字の扱いは、以下のようになっている。

「第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、(中略)当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。」

学年別配当漢字の「読み」は当該学年において、「書き」は次の学年までに定着を図ることになっている。そこで「読み」については第4学年までに、「書き」については第3学年までに配当された範囲から出題した。

(1)の①位置(イチ)、②周囲(シュウイ)は、音読みの熟語を読む力、③束(たば)は、送り仮名のない訓読みの漢字を読む力、④争う(あらそう)は、送り仮名のある訓読みの漢字を読む力を問うている。

(2)の①洋服(ヨウフク)、②予定(ヨテイ)は、音読みの熟語を書く力、③緑(みどり)は、送り仮名のない訓読みの漢字を書く力、④拾う(ひろう)は、送り仮名のある訓読みの漢字を書く力を問うている。(1)、(2)とも、音読み・訓読みの問題を、送り仮名の有無も含めた3種類のバランスを考慮して出題した。

第3学年及び第4学年では、第1学年及び第2学年で習う漢字に比べ、配当漢字が増え、それぞれの漢字の画数が多くなることから、漢字学習に抵抗を感じる児童も出てくる。反面、熟語として扱う文字が増えたり、漢字のつくりや辞書の使い方について学習したりする機会が増えてくる。それらのことと関連させるなどして、学習指導方法を工夫すれば、意欲に結び付けることもでき、成果も期待できるであろう。

[3] 解説

「読み」は平均正答率が90.5%であった。①92.7%、②90.5%、③89.0%、④89.6%と、いずれの漢字も正答率が90%前後であり、定着していることが伺える。その要因として、出題した語句は日常的に耳にしたり、目にしたりする機会が多く、想起し易かったことが考えられる。日頃からたくさんの本に触れるなどして言葉の幅をさらに広げさせていきたい。

「書き」については平均正答率が70.5%であった。その中でも「洋服」については58.7%と低い正答率だった。誤答した児童の多くが「洋」を正しく書けていなかった。漢字を習得する際、漢字の成り立ちを理解していないことが考えられる。また「洋服」、「拾う」については10%以上の無解答が見られた。日頃、文を書くときに既習の漢字を使わず、平仮名表記で済ませてしまっていることが原因と思われる。漢字学習では、ねらいを「文や文章の中で使う」としており、漢字を日常生活で使うことが求められている。日常的に既習の漢字を用いる場面を設定したり、辞書を活用する習慣を身に付けさせ、言葉に興味や関心をもてるような機会を与えたりするなどの指導を通して、定着を図りたい。

大問 3

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中間	小問				
12		(1)			1	1	22.1
				○	2	2	59.1
					3	3	10.7
					4	4	6.1
					上記以外の解答	9	0.2
					無解答（無記入の場合）	0	1.7
				13	3	(2)	
	2	2	31.8				
○	3	3	60.7				
	4	4	3.0				
	上記以外の解答	9	0.1				
	無解答（無記入の場合）	0	1.7				
14	3	(3)					
					2	2	13.0
					3	3	2.6
				○	4	4	74.1
					上記以外の解答	9	0.1
					無解答（無記入の場合）	0	1.1
				15	3	(4)	
○	2	2	60.6				
	3	3	0.2				
	4	4	0.8				
	上記以外の解答	9	0.1				
	無解答（無記入の場合）	0	0.7				

[2] 出題のねらい

学習指導要領に記載されている〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕のうち、(1)イ「言葉の特徴やきまりに関する事項」(キ)の文の構成の初歩的な理解について、(1)ウ「文字に関する事項」(ア)のローマ字で表記された単語の読みの理解について、(1)イ「言葉の特徴やきまりに関する事項」(カ)の辞書を利用して調べる方法の理解について、(2)ア「書写に関する事項」の漢字の正しい筆順の理解について、それぞれの指導内容の定着度を測る問題である。

(1)は、主語を問う問題である。過去の調査では修飾語についての理解を問う問題を出題してきたが、日常生活の中で主語を適切に使えなくなっている児童の現状を踏まえ、今回新たに出題をした。

(2)は、与えられた単語の正しいローマ字表記を選ぶ問題である。駅の案内板や店の看板など日頃の生活の中で、ローマ字表示されたものを見かけることが多くなった。児童がよく目にする簡単な単語について、ローマ字の理解を問う出題とした。

(3) は、国語辞典を利用して調べる問題である。辞書を活用する知識・技能や態度、習慣の基礎は、第3学年及び第4学年で学習する内容である。今回は、国語辞典を利用して文に合う言葉の意味を調べる問題にした。

(4) は、漢字の正しい筆順を理解しているかを問う問題である。文字を正しく整えて書く能力を身に付けることは、日常生活における硬筆による書写の能力を高める基礎となる。したがって、毛筆で正しく整えて書くことの基礎・基本を硬筆に関連させた指導計画や指導法を創意工夫することが大切である。

[3] 解説

(1) は、「冷たい」の直後にある「水が」が主語であり、文の構成としては比較的易しいものである。正答率は 59.1%であった。言語事項の全問中二番目に低い正答率となった。誤答で「冷たい」を選んだ児童が 22.1%いたのは、文の初めにあるものを、主語ととらえてしまっていることが考えられる。また、「コップに」を選んだ 10.7%の児童は、主語の意味を理解していなかったと思われる。日常生活における会話の中でも、主語を意識して話したり聞いたりさせることが大切である。

こうした言語事項は、取り立て指導のみでは定着が図られにくい。今後も「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の指導を通して、継続的、意図的に指導していきたい。

(2) の正答率は 60.7%であった。誤答の中では「benki」を「でんき」であると選んだものが 31.8%あった。d と b の形が似ているためだと思われる。学習指導要領では、これまでは第4学年であったローマ字に関する事項を、第3学年の事項として示し、ローマ字を使った読み書きがより早い段階においてできるようにとしている。ローマ字は取り立て指導だけではなく、継続して書いたり読んだりする機会を意図的に設けて定着を図っていくことが大切である。

(3) の正答率は 74.1%であった。「出来事が起きる」の「起きる」の意味を、「目が覚める」とした誤答が 13.0%と多かった。児童の生活の中で「起きる」は、「目が覚める」という意味での使い方が多い。よって、問題文の中の意味でとらえず、日常的な意味から解答したと考えられる。第3学年及び第4学年は、辞書を活用する能力や態度、習慣の基礎を育てる時期である。まず、国語辞典や漢和辞典などを活用する習慣を付けていく指導が不可欠である。そのためにも、必要なときにはいつでも辞書が手元にあって使えるように環境を整える配慮をしておくことが重要である。また、国語科に限らず、他の教科での調べる学習や日常生活の中でも積極的に辞書を利用できるようにする必要がある。

(4) の正答率は 60.6%であった。漢字の正しい筆順を理解しているかを問う問題である。誤答を選んだ児童は、「右」の正しい筆順を理解していないか、設問の意味を理解していないためだと考えられる。文字を正しく整えて書く能力を身に付けることは、硬筆による書写の能力を高める基礎となる。毛筆指導や新出漢字の学習においては正しい筆順指導を継続的に行うことが「硬毛一体」の指導となる。

大問 4

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正 答	解答類型	類 型 番 号	出現率(%)
No	大 問	中 問	小 問				
16		(1)			1	1	1.3
					2	2	3.1
					3	3	5.5
				○	4	4	88.7
					上記以外の解答	9	0.1
					無解答（無記入の場合）	0	1.2
				17		(2)	
	2	2	3.2				
○	3	3	79.5				
	4	4	2.5				
	上記以外の解答	9	2.2				
	無解答（無記入の場合）	0	1.4				
18	4	(3)					
				○	2	2	92.3
					3	3	1.9
					4	4	1.5
					上記以外の解答	9	0.2
					無解答（無記入の場合）	0	1.1
				19		(4)	
	2	2	12.2				
	3	3	13.6				
	4	4	5.5				
	上記以外の解答	9	0.1				
	無解答（無記入の場合）	0	2.1				
20		(5)					
					上記以外の解答	9	45.9
					無解答（無記入の場合）	0	17.4

[2] 出題のねらい

学習指導要領における第3学年及び第4学年の「読むこと」の目標は、以下の通りである。

「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」

文学的な文章では想像しながら読み進めていく力、すなわち、「場面の移り変わりや情景、人物の心情などを、叙述を基に想像しながら読む力」を身に付けさせたい。

(1)は場面の様子を読み取る問題、(2)は場面に合った登場人物の言葉を考える問題、(3)は登場人物の様子を読み取る問題、(4)は前後の叙述を手がかりに登場人物の心情を読み取る問題、(5)は文章全体の叙述を通して、読み取ったことをまと

める問題である。

[3] 解説

(1) は、叙述に即して「ぼく」が身をかがめた理由を読み取る問題である。「ぼく」の「かた車してやるから」という言葉や「小がらで、あんまり重くなかった。」という文から、「ぼく」が英太を肩に乗せる場面であると理解すれば正答できると考える。正答率は88.7%と良好であった。児童の多くが文中の言葉の意味や、つながりを正しくとらえながら読んでいたことが伺える。誤答を選んだ児童には、多くの読み物に触れさせて、叙述から登場人物や場面の様子を読み取る力を育てたい。

(2) は、文章中の登場人物の言葉を時間の順に正しく並べているものを選択する問題である。正答率は79.5%であった。「ア」に当てはまるのは「ぼく」の「かた車をしてやる」という発言に対して英太が「ほんと？」と答える場面である。しかし、14.5%の児童がその直後の「大きな声を上げた英太」という文脈から「うわっ！」が当てはまると考え、解答したと思われる。また「ウ」は、「ぼく」が倒れてしまったときに「うわっ！」と声をあげる場面である。前後の文脈から「ぼく」の様子を理解できれば適切な言葉を当てはめることができる問題である。叙述に即して会話の内容を的確におさえながら読み取る力を育てたい。

(3) は、倒れてしまった英太を「ぼく」が心配して声をかける様子を読み取る問題である。英太の様子を心配している言葉に着目すれば正答できる問題である。正答率は92.3%と良好であった。多くの児童が登場人物の様子を正確に理解して読み取ることができていた。会話文の前後の文脈には場面の状況や登場人物の心情を理解するためのキーワードが含まれていることが多い。一つ一つの言葉を丁寧に読む態度を育てたい。

(4) は、示された文章から分かる「ぼく」の様子として正しいものを選択する問題である。なぜ「ぼく」が「ふり上げたうでをそっと下ろし」たのかは、その前の「ばかにしやがって。でも……。ちがう、むじゃきなだけなのだ、こいつは。」から読み取ることができる。正答率は66.5%であった。合わせて25.8%の児童は「こぶしをふり上げそうになる」「ぼく」の様子を喜びからだ誤解して読み取っている。これは、言葉の意味や使い方を前後の文脈ではなく、自分の知っている範囲のものにたよって、取り違えてしまっていると考えられる。生活経験からの連想ではなく、文脈から根拠をもって読む力を育成したい。

(5) は、この文章を読んだ児童がまとめた感想に当てはまる言葉を書く問題である。正答した児童は36.7%で、大問4の中では最も正答率が低い問題であった。問題文にある「兄弟」という言葉から、「ぼく」が「兄貴だったら」と考えて行動している場面を想定して答える問題である。本文の「どろだらけになってしまった英太のせなかをパンパンとはらってやった。」という「ぼく」の行動を、短くまとめることで正答できる問題である。必要な言葉を選び、適切に10文字以内で答えることが困難な児童がとても多かった。また、無解答の児童も17.4%と非常に多かったことから、問われている内容が理解できない様子も伺えた。日常的に文中の言葉を探して書き抜くことはできても、必要な言葉を精選したり読み取ったりする経験が少ないのではないかと考えられる。文中の言葉を使ってとらえた大意を簡潔な文章に書き換える力が問われている。日頃から、大事な事柄をおさえて説明するといった言語活動を取り入れ、学習の理解を深めるようにしたい。

大問 5

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中間	小問				
21		(1)		○	ア：おでこ，イ：メロン（完答）	1	87.6
					アだけが○だった場合	2	0.9
					イだけが○だった場合	3	5.8
					上記以外の解答	9	2.3
					無解答（無記入の場合）	0	3.4
22		(2)			1	1	5.6
					2	2	14.9
				○	3	3	64.1
					4	4	12.0
					上記以外の解答	9	0.6
					無解答（無記入の場合）	0	2.8
23	5	(3)		○	1	1	82.8
					2	2	8.1
					3	3	4.3
					4	4	2.1
					上記以外の解答	9	0.1
					無解答（無記入の場合）	0	2.5
24		(4)			1	1	3.6
					2	2	5.8
					3	3	4.5
				○	4	4	82.2
					上記以外の解答	9	0.6
					無解答（無記入の場合）	0	3.3
25		(5)			1	1	10.0
				○	2	2	70.1
					3	3	6.7
					4	4	9.7
					上記以外の解答	9	0.1
					無解答（無記入の場合）	0	3.3

[2] 出題のねらい

学習指導要領における第3学年及び第4学年の「読むこと」の目標は、以下の通りである。

「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」

ここでいう「中心」とは、一般には「中心語」、「中心文」、「中心段落」など、文章全体の中で相対的に重要と位置付けられている部分のことである。中心をとらえるためには、接続語、指示語、繰り返し語句などの役割をおさえながら、段落相互の

つながりを理解し、内容や要点を的確に把握することが必要である。そうした力の定着度を測るために、以下のような問題を設定した。

(1) は、イルカはどこから音を出しているのかを説明する文の空欄2つに入れる言葉を、文章中から3字ずつ書き抜く問題である。目的に応じて、内容を大きくまとめながら文章を読む力を問うている。

(2) も、読み取ったことを基に、目的に応じて、内容を大きくまとめながら文章を読む力を問うている。

(3) は、長い研究とは、何を調べる研究かを、選択肢から選ぶ問題である。目的に応じて、文が示している内容など、細かい点に注意して文章を読む力を問うている。

(4) は、「イルカについての研究」と「その研究でわかったこと」が書かれている段落の組み合わせとして正しいものを選択肢から選ぶ問題である。段落の要点をとらえ文章を読む力を問うている。

(5) は、文章の内容に合うものを、選択肢から選ぶ問題である。目的に応じて、文が示している内容など、細かい点に注意しながら読む力を問うている。

[3] 解説

(1) は、第2段落の「イルカはどこから音を出しているのか」とそれを受けた、第3段落の「ちょうど頭の出っばりのおでこの中に『メロン』という体の器官があり」という文に着目すれば正答できる問題である。正答率は87.6%と良好であった。要因として、問題文の「三字ずつで書きぬく」という指示に助けられたことが考えられる。

(2) は、イルカが出す音のうち、人間にはほとんど聞こえない超音波と、人間にも聞こえる音の役割の違いについて理解して読むことができれば、正答できる問題である。問題では、人間にも聞こえるふつうの音の役割について問うているのだが、正答率は64.1%であった。誤答の中で14.9%が選択肢2を、12.0%が選択肢4を選んでいて、どちらも人間にはほとんど聞こえない超音波の役割を答えている。第4段落の内容を正しく理解できておらず、イルカが出す音のうち、人間にはほとんど聞こえない超音波と人間にも聞こえるふつうの音を、区別して読み取れていないことが伺える。

(3) は、目的に応じて、文中に示された内容など、細かい点に注意して文章を読む力を問う問題である。第6段落に「長い研究のあと」という問題となっている「長い研究」に触れている文があり、直前の第5段落に、「イルカにもし言葉があれば、同じ音を出したあとに、いつも同じようなことをするはずです。」という表記がある。そこに気付くことが正答のポイントとなる。正答率は82.8%であった。

(4) は、段落の要点をとらえて文章を読むことができれば、正答できる問題である。第1段落から第4段落までは、イルカの出す音について書かれており、第5段落ではイルカの研究について、第6段落では研究のあとに分かったことについて、第7段落ではまとめが書かれている。正答率は、82.2%で良好であった。その要因として前の設問が第6段落に触れていたこともあり、「その研究でわかったこと」が第6段落に書かれていることを読み取れたと考えられる。選択肢に第6段落が入っているのは、選択肢4だけであるので、正答し易かったと考えられる。

(5) は、目的に応じて、文中に示された内容など、細かい点に注意して文章を読む力を問う問題である。正答率は70.1%であった。誤答の選択肢1、3、4を選んだ児童が、それぞれ10.0%、6.7%、9.7%いた。文章全体の内容を正しく読み取れていないことが考えられる。中心となる語に注目して要点をまとめたり、小見出しを付けたりするなどして内容を整理しながら読む力を育成したい。

大問 6

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
26	6	(1)		○	①ウ ②ア ③イ ④エ (完答)	1	60.3
					①ア ②ウ ③エ ④イ	2	2.2
					①ウ ②ア ③エ ④イ	3	3.8
					①ウ ②エ ③ア ④イ	4	0.3
					上記以外の解答	9	28.9
					無解答 (無記入の場合)	0	4.5
27	6	(1)	①	○	6行以上10行以内(101字以上200字以内)で書いている場合	1	73.7
					11行以上(201字以上)で書いている場合	2	0.2
					上記以外の解答	9	14.4
					無解答 (無記入の場合)	0	11.8
28	6	(2)	②	○	2段落構成で書いている場合	1	63.2
					2段落に分けて書いているようだが、段落の書き始めの1マス空けができていない場合	2	3.2
					3段落以上で書いている場合	3	12.2
					上記以外の解答	9	9.6
					無解答 (無記入の場合)	0	11.8
29	6	(2)	③	○	『春』という言葉から思いうかべることについて書かれている場合	1	85.7
					上記以外の解答	9	2.5
					無解答 (無記入の場合)	0	11.8
30	6	(2)	④	○	「そのことが思いうかんだ理由」について書かれている場合	1	80.1
					「好きだから」「春だから」などだけで、理由が『春』という言葉との関連が希薄で明確でない場合	2	3.4
					上記以外の解答	9	4.7
					無解答 (無記入の場合)	0	11.8

[2] 出題のねらい

学習指導要領における第3学年及び第4学年の「書くこと」の目標は、以下の通りである。

「相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。」

書く題材については、昨年度は「今年の目標を表す漢字一字」という言葉を通して自分の思いを見つめさせる題材であったが、今年度は『春』という言葉から思いうかべること」という一つの言葉から連想することを扱う題材とした。

(1)は、4枚のカードを並べ替え、「初め」、「中」、「終わり」の欄に入れて、構成メモを完成させる問題である。ここでは、段落相互の関係に留意して、文章を構成す

る能力を問うている。段落意識をもって適切な文章を書くためには、記述の際だけではなく、書く材料の収集、選択や構成を考えることなども必要である。

(2) は、与えられた条件の中で自分の考えをまとめ、指定された行数の中で構成を考えながら記述する問題であり、表現しようとする意欲、態度と技能を問うている。これは、ここ数年来指摘されている日本の児童・生徒の「記述式の問題についての無解答率の高さ」という課題が、川崎市の児童にも当てはまるかを知りたいと考え、継続的に出題しているものである。

[3] 解説

「書くこと」の領域では、相手や目的に応じて、必要な事柄を整理したり選択したりして、簡単な組み立てを考えながら記述する力や文章を構成する力をみたいと考えた。第3学年及び第4学年における「書くこと」の目標の一つは「段落相互の関係などに注意して文章を書く」ことである。適切な文章を書くためには、記述の際だけではなく、書く材料の収集・選択・構成などにおいても工夫が必要である。

(1) は、4枚のカードを、初め・中・終わりという構成メモに並べ替える問題である。正答率は60.3%とやや低い結果であった。4枚のカードは、「問題提起」、「調査方法」、「調査結果」、「まとめ」と、調べたことをまとめる基本的な組み立てになっている。「問題提起」の前に「調査方法」を入れてしまう誤答は2.2%であった。解答時にそれぞれのカードに書かれた内容を読み取り、どのようにつなげていくかという構成を考える力を育てたい。

報告文や説明文、手紙文を書いたり読んだりする活動と関連させて、段落相互の関係や段落ごとの役割についての理解を、より一層定着させる指導が大切である。

(2) は、「春」という言葉から思い浮かべたことを、構成を考えながら記述する問題である。注意する点を4つ示し、採点基準としている。

①の条件は、定められた文字数で自分の考えをまとめることである。正答率は73.7%であった。無解答率は11.8%であり、解答（記述）時間の不足による無解答も含まれることが推測される。

②の条件は、2段落構成で書くことである。正答率は63.2%である。3段落以上で書いている児童は12.2%いた。文章を書く際の段落に対する意識が不足していたり、「一文改行」の癖が付いていたりする児童も少なくない。段落の役割や意味を繰り返し確認するとともに、日常的なノート指導、作文指導においても段落意識を育てたい。

③の条件は、「あなたが『春』という言葉から思いうかべること」を書くことである。正答率は、85.7%と概ね良好であった。問いに対して、「必要のある事柄」を選択して書くことができている。

④の条件は、選んだ理由を書くことである。正答率は80.1%と概ね良好であった。「好きだから」、「春だから」などだけで、理由が「春」という言葉との関連が希薄で明確でない解答は3.4%と低く、根拠や理由を述べたり、書いたりする日常の指導の成果が数字に現れていると考えられる。

最後の設問であるための時間不足も考えられるが、(2)の無解答率は11.8%であった。他教科との関連なども考慮しながら、日常的に「相手や目的に応じて自分の考えを書く」活動に取り組みさせていく必要性を感じる。また、学習指導要領にも書かれているように、今後は理由や事例を挙げながら自分の考えを書いていく力がますます求められる。そのことを踏まえて学習に取り組みたい。

(5) 今後の指導にあたって

○話すこと・聞くこと【大問1】

「聞くこと」についての調査結果は、昨年度に引き続き概ね良好であった。聞いた内容を整理しながらメモをとることは聞く力を確かなものにする。国語の学習はもとより、他教科の学習や諸連絡の場などにおいても、メモの積極的な活用を図りたい。実際の場合を通して、事柄の順序や要点、中心などをおさえて、組み立て方を意識しながらメモをとることのできる力を育てていきたい。すべての教科で、メモをとらせることを指導者が意識すればメモ能力も高まるはずであり、メモをとることが実用的であることを児童に実感させたい。また、話し合いの目的を明確にし、目的を達成するためには、意見を整理し、まとめる司会者の役割がとても重要である。さまざまな話し合い活動の場を通して、意図的、具体的に児童を司会者として育てていくことが大切である。

○書くこと【大問6】

構成メモを完成させる問題と、与えられた条件を基に記述する問題を出題したが、概ね良好であった。調べたことを文章にまとめるときの基本的な組み立て(「問題提起」、「調査方法」、「調査結果」、「まとめ」)については、実際の作文指導の中で、構成メモを活用させ、段落相互の関係や役割を具体的に理解させることにより身に付けさせたい。また、他教科や総合的な学習の時間との関連を考慮しながら、日常的に「相手や目的に応じて自分の考えを適切に書く」活動に取り組ませたい。この結果に満足することなく、相手意識、目的意識、場面意識、方法意識、評価意識をより明確にした書く活動に取り組ませることで、書く力の向上を図りたい。

○読むこと【大問4・5】

読む力は、物語文、説明文いずれにおいても一部の問題を除いて概ね良好であった。全体的に細かい点にまで注意して叙述を丁寧に読む力を育てていく必要性を感じた。物語文では、キーセンテンスやキーワード(重要語句)と関連付けて情景や心情を読み取ったり、場面相互の関係について考えたりする指導に力を入れたい。また、説明文においては、指示語や接続語の役割、段落の要点のとらえ方、段落相互の関係などの指導をどのように工夫するのが今後の課題である。学習者主体の読みの活動は大前提であるが、どのような言葉の力を付けたいかが不明瞭な学習活動で終わることなく、言語の教育であるという原点に立ち返って、一つ一つの叙述に沿って文章を読むという態度と能力を育てていきたい。説明文も物語文も「根拠をもった読み」という指導が必要である。

○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項【大問2・3】

漢字の「読み」については、概ね良好な結果であった。しかし問題ごとの正答率には差がみられた。「書き」については、漢字や送り仮名が正しく書けていなかったり、未記入にしていたりする児童が少なくなかった。漢字による日常表記を習慣化させなければ、曖昧な漢字の獲得にしかない。国語辞典を身近に置いて活用する習慣を付けさせ、作文やノート、日記や連絡帳などさまざまな書く場において日頃から既習の漢字を積極的に使うように指導し、定着を図っていききたい。

文法的な内容である主語を問う問題での正答率は良好とは言えなかった。こうした言語事項は、一度学習しただけではなかなか定着しないものである。3領域の中でも繰り返し指導し、定着を図っていく必要がある。取り立て指導だけでなく、例えば文脈に沿って内容を考えさせたり、表現の工夫や効果に気付かせたりする指導も有効である。「ローマ字で表記された単語を読む問題」についての正答率は概ね良好であった。自分の名前をローマ字で書かせるなど、機会を見つけては表記させるようにしたい。「国語辞典を利用して文に合う言葉の意味を考える問題」は、良好であった。引き続き日頃の国語学習において、児童が必要に応じて辞書を活用できる環境づくりに努めたい。「漢字の正しい筆順を理解する問題」の正答率は60.6%であった。毛筆と硬筆に関連させた指導の工夫が必要である。

◎全体を通して

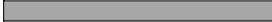
全体としては概ね満足できる結果が得られたが、今後取り組むべき課題もみえてきた。この調査は「指導に活かす」ことを目的として実施されたものであるから、各学校、各学級においても課題を整理し、各大問の「出題のねらい」、「解説」を参考にし、明日からの国語学習の指導の改善に活かしていくことが望まれる。なお、言葉の力を育てるには、国語の時間に指導することを中核としながら、学校教育全体で取り組むことも大切である。言語環境を整備したり、読書活動を充実させたりするなど、教育課程の全体を通して育てていくよう、各学校において工夫されることが望まれる。

2. 算 数

(1) 作問にあたって

- ① 川崎市全体における第5学年の学習状況を把握するため、より客観的なデータが得られるように作問を行った。したがって、出題範囲を第4学年までとし、基礎・基本の定着の様子をみることができる問題を作成した。また、過去の問題と関連したものも出題することによって、解答傾向の推移も把握できるように配慮した。
- ② 学習指導要領において、算数科は「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」の4領域で構成されている。そこで、幅広い範囲において学習状況を把握していくために、4領域の項目についてすべて網羅するように出題した。
- ③ 主たる評価観点を考えた上で問題を作成したが、「算数への関心・意欲・態度」の評価観点については、ペーパーテストでみることは難しいと考え、評価の観点としては取り上げないことにした。他の「数学的な考え方」、「数量や図形についての技能」、「数量や図形についての知識・理解」の3観点については網羅するようにした。しかし、「数学的な考え方」は、本来、論理的な思考過程をみるものであり、ペーパーテストでは表出しにくい面があることを念頭に入れておく必要がある。
- ④ 本調査は、児童の学習の実現状況を把握するとともに、「生きる力」を育む教育課程や指導法の検証・改善に活かすことなどをねらいとして行われるものである。したがって、作問にあたっては、誤答からなぜそうした間違いをするのか、調査後どのような点に気を付けて指導していけばよいか分かるように配慮した。

(2) 領域ごとの結果

領域		該当する問題番号	正答率(%)
A	数と計算	1 (1) (2) (3) (4) (6)	 69.2
		2 3 (1) (2) (3)	
		4 5 (1) (2) 8	
B	量と測定	10 (1) (2)	 65.5
		11 (1) (2) (3) 17	
C	図形	12 13 (1) (2)	 72.9
		14 (1) (2)	
D	数量関係	1 (5) 6 7 9	 71.9
		15 16	

(3) 出題・観点等一覧 (次ページ)

出題・観点等一覧

シリアル No.	問題番号		正答		観点		問題の内容	領域	出題のねらい	新学習指導要領	正答率(%)
	大問	小問	(選択式→番号、記述式→言葉)	数学的な 考え方	数量や図形 についての 技能	数量や図形 についての 知識・理解					
1	(1)	6.7		◎			①分数、小数	A数と計算	小数第一位までの小数の加法ができる。	3年A(5)イ	81.9
2	(2)	30.9		◎				A数と計算	小数第一位までの小数の減法ができる。		79.5
3	(3)	7.5		◎			②かけ算、わり算		(小数)×(1けた)の乗法ができる。	4年A(5)ウ	93.4
4	(4)	1.5		◎				D数量関係	(整数)÷(整数)のわり進む除法ができる。		64.4
5	(5)	23		◎			③式と計算		四則混合計算ができる。	4年D(2)ア	70.5
6	(6)	9/7(12/7)		◎			①分数、小数	A数と計算	同分母分数の加法ができる。	4年A(6)イ	95.9
7	2	12(本とれて、)1.4(cmあまり)(完答)		◎	○		②かけ算、わり算	A数と計算	(小数)÷(1けた)の余りのある除法の適用問題ができる。	4年A(5)ウ	36.3
8	(1)	1/5		◎	◎			A数と計算	分数が単位分数のいくつ分かで表せることがわかる。	3年A(6)イ	78.6
9	3	11/3(4/3)		◎	◎		①分数、小数	A数と計算	数直線上に示された分数をよみとることができる。		59.8
10	(3)	7/3、2、12/3(完答)		◎	◎			A数と計算	分数の大小がわかり、仮分数・帯分数・整数を大小順に並べることができる。	4年A(6)	60.9
11	4	③		○	◎		④大きな数	A数と計算	位取り記数法を理解し、1億より大きい数を表すことができる。	4年A(1)ア	60.4
12	(1)	39000		◎	○			A数と計算	四捨五入を理解し、上から2けたの概数で表すことができる。	4年A(2)イ	67.4
13	(2)	(ア)③、(イ)①(完答)		◎	○		⑤がい数		「以上」「以下」の意味がわかり、概数に対応する数の範囲がわかる。	4年A(2)ア、イ	61.3
14	6	(左から)一、×(完答)		◎	○		③式と計算	D数量関係	計算順序に関する文章問題を式に表すことができる。	4年D(2)ア	71.9
15	7	③		◎	○		③式と計算	D数量関係	四則混合計算の仕方がわかり、指定された式になる問題を選択できる。	4年D(2)ア	63.8
16	8	②		◎	○		②かけ算、わり算	A数と計算	倍とわり算の問題を図に表すことができる。	4年A(3)ア	60.2
17	9	7		○	◎		③式と計算	D数量関係	計算のままりを理解している。	4年D(3)ア	59.2
18	(1)	125(度)		◎	○		⑦角	B量と測定	分度器を用いた角度のほかり方がわかる。	4年B(2)ア、イ	74.4
19	(2)	45(度)		◎	○				回転の大きさを表す量として角の大きさをとらえることができる。		62.2
20	(1)	③		◎	◎				面積の大きさについての感覚を身に付けている。	4年B(1)ア	44.0
21	(2)	(式)5×5(=25) (答)え25(cm)(完答)		○	◎		⑥面積	B量と測定	正方形の面積を求めることができる。	4年B(1)ア、イ	79.0
22	(3)	(式)4×6(=24) (答)え24(cm)(完答)		○	◎				長方形の面積を求めることができる。		91.0
23	12	略(辺の長さが6cmと3cmの平行四辺形)		◎	○		⑧いろいろな形	C図形	平行四辺形の作図ができる。	4年C(1)イ	55.8
24	(1)	②(七)④(順不同、完答)		◎	◎			C図形	四角形の辺の長さの性質がわかる。	4年C(1)イ	88.2
25	(2)	③(七)④(順不同、完答)		◎	◎		⑧いろいろな形	C図形	四角形の対角線の性質がわかる。		65.9
26	(1)	①		◎	◎		⑧いろいろな形	C図形	直方体の展開図がわかる。	4年C(2)ア、イ	76.7
27	(2)	(面)い、(面)か、(面)え、(面)お(順不同、完答)		◎	◎				直方体の面に垂直な面がわかる。		78.0
28	15	7(こ)		◎	○		⑩変わり方	D数量関係	伴って変わる二つの数量の関係をとらえることができる。	4年D(1)	78.4
29	16	(例)2001年生まれの女子の人数		◎	○		⑨整理のしかた	D数量関係	二次元表をよみとり、対象のマスの意味を説明することができる。	4年D(4)ア	87.7
30	17	(図)略 (説明)例)2つの長方形に分けて計算して、それぞれの面積を合わせた。(完答)		◎	○		⑥面積	B量と測定	複合図形の面積の求め方を考え、説明することができる。	4年B(1)ア、イ	42.0

【観点】◎…主たる観点 ○…従たる観点

(4)大問ごとの分析と考察

大問 1

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正 答	解答類型	類 型 番 号	出現率(%)
No	大 問	中 問	小 問				
1		(1)		○ 6. 7	1		81.9
				67	2		0.1
				4. 9	3		14.1
				49	4		0.2
				6. 9	5		0.7
				69	6		0.0
				上記以外の解答	9		2.7
				無解答	0		0.4
2		(2)		○ 80. 9	1		79.5
				8. 09	2		6.2
				809	3		0.2
				21. 5	4		0.0
				75. 5	5		0.2
				81. 1	6		0.7
				82. 1	7		1.3
				上記以外の解答	9		10.9
無解答	0		0.9				
3	1	(3)		○ 7. 5	1		93.4
				75	2		1.8
				6. 15	3		0.1
				61. 5	4		0.1
				615	5		0.0
				上記以外の解答	9		4.1
				無解答	0		0.6
				4		(4)	
15	2		22.1				
1あまり3	3		1.7				
1. 3	4		0.2				
上記以外の解答	9		7.8				
無解答	0		3.8				
5		(5)		○ 23	1		70.5
				56	2		20.0
				上記以外の解答	9		8.5
				無解答	0		1.1
6		(6)		○ 9/7 (1 2/7)	1		95.9
				9/14	2		0.3
				上記以外の解答	9		3.0
				無解答	0		0.9

[2] 出題のねらい

大問1は、第4学年で学習する計算問題をまとめて出題している。(1)～(4)と(6)は「数と計算」、(5)は「数量関係」領域の問題となっており、いずれの問題も観点は数量や図形についての技能である。

(1)は、小数の加法の問題である。被加数を整数にすることで、小数と整数の違い、位取りを意識して計算できているかをみる問題として設定した。

(2)は、小数の減法の問題である。減数を整数部分のない純小数にして、小数点を意識して計算できているかをみる問題として設定した。

(3)は、小数×整数の問題である。被乗数の小数点を意識して、積の小数点を打っているかをみる問題として設定した。

(4)は、 $(1\text{桁}) \div (1\text{桁})$ で、割り進みの除法である。割り進む場合の除法ができているかをみる問題として設定した。

(5)は、四則混合の問題である。四則計算の順番について、加減乗除が混合している場合は、乗除から先に計算できているかをみる問題として設定した。

(6)は、同分母の真分数の加法の問題である。同分母の真分数の加法ができているかをみる問題として設定した。

[3] 解説

(1)「 $2+4.7$ 」の正答率は81.9%と昨年度の「 $4.7+2$ 」の正答率60.7%と比べて20ポイントほど高い。被加数と加数を入れ替えたことにより、2を0.2のように小数とみなして計算し「4.9」としている誤答が34.5%から14.1%に減少したと考えられる。引き続き、十進位取り記数法を意識して、位をそろえて計算できるように指導していくことが大切である。

(2)「 $81.5-0.6$ 」の正答率は79.5%で、「8.09」としている誤答が6.2%あった。小数点をそろえて計算することはできているが、小数点の位置を打ち間違えていることが分かる。引き続き、小数の仕組みを考えながら、小数の減法を指導していくことが大切である。

(3)「 2.5×3 」の正答率は93.4%で、小数×整数の計算の仕方は十分身に付いていることが分かる。

(4)「 $9 \div 6$ 」の正答率は64.4%で、「15」と小数点を付け忘れていた誤答が22.1%あった。割り進みの計算の意味を理解させながら、処理技能の定着を図る必要がある。

(5)「 $11+3 \times 4$ 」の正答率は70.5%で、昨年度の「 $19+7 \times 3$ 」の正答率73.5%と同程度である。左から順に計算した誤答の割合が20.0%あり、四則計算のきまりにしたがって計算できるように指導していく必要がある。

(6)「 $4/7+5/7$ 」の正答率は95.9%で、同分母の真分数の加法の仕方は十分身に付いていることが分かる。

大問 2

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中間	小問				
7	2			○	12(本とれて,)1.4(cmあまる) (完答)	1	36.3
					12(本とれて,)14(cmあまる)	2	1.7
					12(本とれて,)0.4(cmあまる)	3	1.0
					12(本とれて,)4(cmあまる)	4	0.8
					12.4(本とれて,)0.2(cmあまる)	5	4.1
					12.4(本とれて,)2(cmあまる)	6	12.5
					上記以外の解答	9	38.9
					無解答	0	4.7

[2] 出題のねらい

大問2は、「数と計算」領域の「小数と整数のわり算」の文章問題である。割り切れる場合、割り進む場合、あまりを出す場合など、問題場面の意味を考えながら計算することができるのかをみることを目的として問題を設定した。

[3] 解説

文章を読んで、 $37.4 \div 3$ と表現し、処理するこの問題は、正答率が36.3%と低かった。場面の意味をとらえているが、あまりの処理ができていない誤答が合計で3.5%、場面の意味をとらえることができず、割り進んで計算している誤答が合計で16.6%あった。

「小数と整数のわり算」の問題場面には、割り進む（割り切れず商を概数で求める場合も含む）場面（等分除）とあまりを出す場面（包含除）とがある。いずれの場合も小数÷整数の処理技能を身に付けるだけでなく、場面の意味をとらえ、どの位まで計算すればよいのかを考えることを大切にされた指導を行う必要がある。

大問 3

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正 答	解答類型	類 型 番 号	出現率(%)
No	大 問	中 問	小 問				
8		(1)		○	1/5	1	78.6
					5	2	8.9
					/5	3	0.0
					3/5	4	0.5
					1/10	5	0.3
					0.1	6	0.7
					1	7	4.2
					上記以外の解答	9	4.7
					無解答	0	2.2
9	3	(2)		○	1 1/3 (4/3)	1	59.8
					1/3	2	4.6
					4/7	3	1.0
					1.1	4	1.5
					1.3	5	0.6
					上記以外の解答	9	25.4
					無解答	0	7.1
10		(3)		○	7/3, 2, 1 2/3 (完答)	1	60.9
					7/3, 1 2/3, 2	2	8.6
					1 2/3, 7/3, 2	3	4.1
					1 2/3, 2, 7/3	4	2.4
					2, 7/3, 1 2/3	5	10.6
					2, 1 2/3, 7/3	6	9.5
					上記以外の解答	9	3.1
					無解答	0	0.7

[2] 出題のねらい

大問3は、「数と計算」領域の「分数」に関する問題である。ここでは、分数の基礎的・基本的な理解ができているかをみることを目的として問題を設定した。そのため、知識・理解が主たる観点の問題となっている。

(1) は、分数が単位分数のいくつ分で表されていることが分かっているかどうかをみるための問題である。

(2) は、数直線上に表された分数を読み取る問題である。今年度は1より大きい分数のみ数直線上に表す問題を設定した。

(3) は、分数と整数を大きい順に並べる問題である。昨年度と同様に仮分数、帯分数、整数を扱い、帯分数か仮分数にそろえて比較する必要があるような問題を設定した。

[3] 解説

(1) は、「 $3/5$ は、□を3こ集めた数です。」と□に当てはまる数を問う問題である。正答率は78.6%で、ここ3年の正答率の変化はあまりみられなかった。過去の「 $7/9$ は、 $1/9$ を何こ集めた数ですか。」という問題では95.9%と高い正答率であった。分数が単位分数のいくつ分で表せることが分かっているにもかかわらず、分数を見て単位分数を思い浮かべることが困難な児童もいると思われる。分数の意味理解ができるよう指導を工夫するだけでなく、分数以前の学習でも、ある数を単位となる数のいくつ分でとらえるような見方を育てていく必要がある。

(2) は、数直線上に示された分数「1と $1/3$ (または $4/3$)」を読み取る問題である。正答率は59.8%であり、昨年度の同様な問題と大きな差はみられない。昨年度、1より小さい分数の場合では67.4%と高かったことから、1より大きい分数になるとつまずく児童がいることが分かる。「1を等分したもののいくつ分」という分数の意味を、1を超えたはしたの部分でも考えられるように、数直線などを用いて視覚的にとらえられるような指導の工夫が必要である。

(3) 「 $7/3$ 、1と $2/3$ 、2」を大きい順に並べるという問題では、正答率が60.9% (昨年度56.5%)であった。誤答の中では「2」を一番大きいという解答が20.1%と高かったことから、分数で表せる数は1よりも小さい、または1と同等と思っている児童が多いのではないかと予想される。あらゆる数を分数で表せることや、比較の際には仮分数や帯分数に揃える必要があることを感じられるような指導の工夫をしていく必要がある。

大問 4

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中間	小問				
11	4			○	①	1	0.8
					②	2	36.9
					③	3	60.4
					④	4	1.2
					上記以外の解答	9	0.2
					無解答	0	0.6

[2] 出題のねらい

大問4は、「数と計算」領域の「大きな数」の内容として、億の単位までの範囲で出題した。十進位取り記数法の理解を中心として知識・理解を主たる観点としたため、昨年度と同様に数を書き表すのではなく選択する形式にした。「10億を23こ集めた数はいくつ」という、億を超える大きな数でも、単位のいくつ分で数が構成されていることを理解しているかをみる問題である。

[3] 解説

正答率は60.4%で、昨年度の82.4%から大きく下がった。原因としては、昨年度の問題が「1億を20こ集めた数はいくつ」という、比較的イメージし易いものであったことが考えられる。実際、「23億」とした誤答が36.9%あり、「23こ」という言葉から単純に思い込んでしまったと予想される。単位となる数を意識するために、低学年から数を多様にみる指導が必要である。例えば、「1200」を「1が1200こ」だけでなく、「10が120こ」、「100が12こ」、「120が10こ」などとみられるようにすることが重要である。

大問 5

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
12		(1)		○	39000 または 約39000	1	67.4
					30000	2	0.3
					38000	3	2.2
					38500	4	2.3
					38600	5	0.5
					40000	6	14.9
					上記以外の解答	9	8.6
					無解答	0	3.8
13	5	(2)		○	(ア)3または250, (イ)1または349 (完答)	1	61.3
					(ア)3または250, (イ)2または350	2	6.9
					(ア)3または250, (イ)1, 2, 349, 350以外(無解答含む)	3	5.0
					(ア)1または200, (イ)3または399	4	0.8
					(ア)1または200, (イ)4または400	5	2.8
					(ア)4または251, (イ)1または349	6	10.8
					上記以外の解答	9	8.9
					無解答	0	3.4

[2] 出題のねらい

大問5は、「数と計算」領域の「がい数」の内容から出題した。

(1)は、「38504」を四捨五入して、上から2桁の概数で表す問題である。四捨五入の仕方が分かり、適切に処理できるかどうかをみる問題として設定した。

(2)は、「四捨五入して百の位までの概数にしたとき、300になる数の範囲にある数」を答える問題である。概数の意味に基づいて判断することができるかどうかをみるために設定した。

[3] 解説

(1)の正答率は67.4%で、昨年度と大きな差はない。誤答では「上から2桁目で四捨五入」している解答が14.9%と最も多い。引き続き、問題文からどの位で四捨五入するのかを判断できるようにしていくことが大切である。

(2)は、「四捨五入してある数になる数の範囲」を答える問題で、正答率は61.3%であった。引き続き、数直線などを活用して視覚的に数の範囲をとらえられるように指導を工夫する必要がある。また、正確な数を概数にする活動だけでなく、概数からもとの数値を予想する活動も取り入れることが大切である。

大問 6

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中間	小問				
14	6			○ (左から) -, × (完答)	1		71.9
				(左から) +, ×	2		2.9
				(左から) ÷, ×	3		8.1
				(左から) +, -	4		0.5
				(左から) -, -	5		0.5
				(左から) ×, -	6		0.9
				(左から) ÷, -	7		1.3
				(左から) -, ÷	8		3.4
				上記以外の解答	9		8.4
				無解答	0		2.2

[2] 出題のねらい

大問6は、「数量関係」領域で、四則混合した問題の意味を理解し正しく立式できるかどうかをとらえるための問題として設定した。主たる観点は、数学的な考え方の「式についての考え」である。今年度は減法と乗法が混在する問題にした。

[3] 解説

今年度は、「おさいふに250円入っています。50円のチョコレートを4つ買いました。残りは何円ですか。」を1つの式に表すとどうなるかを考え、 $250 \square 50 \square 4$ の□に当てはまる記号(「-」、「×」)を書く問題であった。正答率は、71.9%であった。

昨年度は、「はじめに、さとうが400gありました。そのあと、50gずつ入ったさとうを3ふくもらいました。さとうは全部で何gになりましたか。」を1つの式に表すとどうなるかを考え、 $400 \square 50 \square 3$ の□に当てはまる記号(「+」、「×」)を書く問題であった。正答率は80.5%であった。昨年度と比較すると、減法より加法の混合場面の方が、数量関係をとらえ易いと考えられる。

児童が苦手とする減法の混合場面をよりよく理解するために、引き続き、問題文から形式的にとらえるような指導ではなく、「問題を読んで場面をとらえること」、「場面を式に表すこと」ができるよう、場面を図に表したり、一度立てた式の意味をもう一度読み取ったりする学習を積み重ねていくことが大切であろう。

大問 7

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中間	小問				
15	7			①	1		14.2
				②	2		6.3
				○ ③	3		63.8
				④	4		13.6
				上記以外の解答	9		0.2
				無解答	0		1.9

[2] 出題のねらい

大問7は、「数量関係」領域の「式と計算」の内容を取り上げた。四則の混合した式や（ ）を用いた式を読み、問題場面と照らし合わせることができるかをみる問題として設定した。

[3] 解説

「 $(180+60) \times 3$ 」の式で答えが求められる問題はどれかを考える問題である。昨年度の「 $(250-50) \div 4$ 」の正答率は72.8%、今年度の「 $(180+60) \times 3$ 」の正答率は63.8%であった。昨年度に比べ、文章が児童にとって分かりにくかったことが正答率の下がった原因の一つと考えられる。選択肢①と④の誤答が、共に10%以上であった。

自分の考えを図や絵に表したり、立式した根拠を場面や図を基に説明したりする日頃の活動が大切である。これからも、学習の中で、ある児童がかいた式や図の意味をクラスで考えるなど、文章と図や式を関連付けて読み取る機会を設ける必要がある。

大問 8

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
16	8			○	①	1	22.9
					②	2	60.2
					③	3	4.9
					④	4	9.7
					上記以外の解答	9	0.4
					無解答	0	1.9

[2] 出題のねらい

大問8は、「数と計算」領域で、比較量と割合から基準量を求める除法の場面を取り上げた。図から数量の関係を読み取る力をみる問題を設定した。

[3] 解説

正答率は60.2%である。選択肢①の誤答率は22.9%と高い。これは、じゃがいもの重さ48kgだけに着目してしまい、じゃがいもとトマトの関係（どちらが基準量なのか）をしっかりとらえていないためだと思われる。過去の同様の設問でも昨年度は60.5%、一昨年度は68.4%という正答率である。

新学習指導要領でも、具体物、言葉、数、式、図、数直線を用いて表したり考えたり説明したりする活動を通して指導することが掲げられている。低学年から、具体物や半具体物を1列に並べたり、図に表したりするなどの活動を増やしていくことが大切である。第2学年のかけ算の学習や、第3学年のわり算の学習でも、数直線を意識したテープ図が教科書などで明示されている。具体的なものから徐々に段階を踏んで、より抽象化されたテープ図や数直線を読み取ったり、かいたりする力を育てていきたい。課題場面から立式して計算処理をするだけでなく、テープ図や数直線などで数量関係をまとめるような授業展開が必要である。

大問 9

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正 答	解答類型	類 型 番 号	出現率(%)
No	大 問	中 問	小 問				
17	9			○ 7		1	59.2
				0		2	0.5
				2		3	5.1
				9		4	0.2
				98		5	3.7
				686		6	1.9
				上記以外の解答		9	18.7
				無解答		0	10.7

[2] 出題のねらい

大問9は、「数量関係」領域で、分配法則の性質を理解し、加減乗除に関するきまりを用いて、工夫して計算できるかをみる問題として設定した。

[3] 解説

正答率は、59.2%である。

$$\begin{aligned}
 \text{昨年度の「}98 \times 7 &= (100 - 2) \times 7 \\
 &= 100 \times 7 - 2 \times 7 \\
 &= 700 - 14 \\
 &= 686 \quad \text{」}
 \end{aligned}$$

の正答率は、42.4%であった。昨年度と同様に、等号の意味や分配法則の理解が不十分であることが伺える。

指導においては、加減乗除に関して成り立つ性質を使いたくなるような課題設定が大切である。使うと計算が簡単にできるという経験を積み、加減乗除に関して成り立つ性質の良さを感じられれば、計算の仕方を自ら工夫しようとするであろう。

また、それらの指導の中で、等号の意味、式の意味や表し方についての指導を充実させることも大切である。

大問 10

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
18		(1)		○	125(度)	1	74.4
					55(度)	2	5.9
					65(度)	3	2.3
					135(度)	4	0.7
					上記以外の解答	9	15.4
					無解答	0	1.3
19	10	(2)		○	45(度)	1	62.2
					22.5(度)	2	0.2
					30(度)	3	6.2
					40(度)	4	4.7
					50(度)	5	3.2
					60(度)	6	3.3
					90(度)	7	3.0
					上記以外の解答	9	11.2
					無解答	0	6.0

[2] 出題のねらい

大問 10 は、「量と測定」領域で、「角」について出題した。

(1) は、分度器を用いて角度を測定する問題で、技能をみる問題である。

(2) は、与えられた図から、角が 1 周で 360 度であることを基に解決するという、主に数学的な考え方をみる問題として設定した。

[3] 解説

(1) は、分度器の 125 度を読み取る問題で、正答率は 74.4%であった。55 度と逆から読んだ誤答が 5.9%あった。65 度や 135 度、またそれ以外など、分度器の目盛りの見方が理解できていない誤答も 18.4%あった。角度は直線の開き具合を表す量という定義を基に、基準の 0 度に着目して分度器の使い方を考えるようにする指導が大切である。角がどちらに開いているのかを判断し、基準の 0 をしっかりと見つけられるようにしたい。また、直角が 90 度であることに着目して角度の大きさを見積もることができるようにしていきたい。

(2) は、正答率は 62.2%であり、昨年度の正答率 51.4%より大きく上がっている。昨年度は 3 枚の三角形を合わせて大きな三角形にしたことから、1 回転した角の大きさと見ることができなかつたり、三角形の内角の和と混同してしまつたりしたからと考えられる。今年度は 8 枚の三角形を合わせたことにより、8 つの角を合わせて 1 回転することが見え易くなっている。また、見た目で角度を答えている児童が 17%以上いたので、180 度を超える角についても操作を通して基準の 0 度からどれだけ開いたかを理解できるようにするとともに、その 1 回転した大きさは 360 度であることをおさえていくことが大切である。

大問 11

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
20		(1)		○	①	1	16.4
				○	②	2	19.3
				○	③	3	44.0
				○	④	4	17.2
					上記以外の解答	9	0.1
					無解答	0	3.0
				21	11	(2)	
	(式) 5×4 または (式) $5 + 5 + 5 + 5$ 答えは問わない	2	8.6				
	(式) 5×2 または (式) $5 + 5$ 答えは問わない	3	1.8				
	(式) 5×1 または (式) 1×5 答えは問わない	4	1.3				
	式は正しいが、答えが間違っているもの	5	1.0				
	答えは正しいが、式が間違っているもの	6	0.2				
	上記以外の解答	9	2.6				
	無解答	0	5.3				
22		(3)		○	(式) 4×6 または $4 \times 6 = 24$ (答え) $24(\text{cm}^2)$ (完答)	1	91.0
					(式) $4 + 6 + 4 + 6$ 答えは問わない	2	0.0
					(式) $4 + 6$ 答えは問わない	3	0.5
					(式) $4 + 6 \times 2$ 答えは問わない	4	0.0
					(式) $(4 + 6) \times 2$ 答えは問わない	5	1.2
					式は正しいが、答えが間違っているもの	6	1.0
					答えは正しいが、式が間違っているもの	7	0.3
					上記以外の解答	9	1.6
					無解答	0	4.5

[2] 出題のねらい

大問 11 は、「量と測定」領域の「面積」について出題した。

(1) は、単位から適切な面積のものを選ぶ問題である。量感が身に付いているかをみることをねらいとしているので、知識・理解の観点とした。

(2) (3) は、正方形・長方形の面積を求める問題である。面積の求め方が分かっているかをみる問題としているので、主たる観点は知識・理解である。

[3] 解説

(1) は、正答率が 44.0%であった。昨年度の正答率 81.3%より大きく下がっている。昨年度は黒板の面積にふさわしい単位 (m^2) を選択する問題であったが、今年度は $4a$ に合う面積のものを選択する問題だった。「 a 」の広さ ($10 \text{ m} \times 10 \text{ m}$) を理解していないので答えられない児童、ミニバスケットボールのコートになじみがなく広さをイメージできない児童が多かったと思われる。昨年度までの傾向から、児童がよく目にするものの広さについての量感は身に付いていると考えられる。なかなか目にしない「 a 」や「 ha 」についても、「 m^2 」との関係を調べたり具体的な広さを体感させたりして理解させられるとよい。長さ、かさ、重さなど、それぞれの量の学習においても、基本となる単位の大きさを実際につくったり探したりする活動や、見当を付けてから適切な測定器具を選んではかる活動をできるだけ多く積み、実感できるようにすることが大切である。

(2) の正答率は、79.0%である。(3) の長方形の面積に比べて正答率が低いのは、数値が1辺の長さ1つしか与えられていないことが原因と考えられる。 5×4 とまわりの長さを求めている児童が 8.6%いた。長方形の面積は求められることから、文章から図形をイメージすることが難しいと考えられる。面積を求める学習においても、図形の学習と結び付けて、言葉で示された正方形をイメージできるようにするために、場面や文章を図に表したり、図から場面や文章を考えたりする指導を大切にしていきたい。

(3) の正答率は 91.0%と、(2) に比べると高かった。これは縦と横の長さがはっきりと数値で出ているので、式にし易いためと思われる。長方形の面積は縦 \times 横で求められることを理解している児童が多い。正方形の場合も同じだが、公式をただ覚えて当てはめるのではなく、単位面積がいくつ分かで表されるという面積の意味を確認しながら効率のよい数え方として公式の意味を理解していることが大切である。

大問 12

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正 答	解答類型	類 型 番 号	出現率(%)
No	大 問	中 問	小 問				
23	12			○	略(辺の長さが6cmと3cmの平行四辺形)	1	55.8
					四角形をかいているが、コンパスのあとがかかれていないもの。もしくは、コンパスのあとを消しているもの。	2	26.8
					上記以外の解答	9	11.1
					無解答	0	6.3

[2] 出題のねらい

大問 12 は、「図形」領域で、平行四辺形の性質を基に、コンパスを使って正しく作図できるかどうかをみる技能の問題である。

[3] 解説

昨年度の正答率は 71.6%であったのに対し、今年度は 55.8%であった。これだけの差が生じたのは、昨年度と違い今年度は、コンパスのあとを消してしまうと正答にならないとしたためだと考えられる。作図のあとや計算のあとを残す指導をしていきたい。この問題に限らないことではあるが、問題文を正確に読み取る児童を育てていきたいものである。

平行四辺形の作図については、「2枚の三角定規を使う作図」と、「コンパスを使う作図」などの多様な作図方法に取り組む学習を行いたい。

そして、その際は、作図の技能を重視するだけでなく、向かい合う2組の辺が平行であるという定義や向かい合う辺の長さは等しくなっているという性質と結び付け、それぞれの作図方法が正しいという根拠を説明させる学習活動も充実させていきたい。

大問 13

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)	
No	大問	中間	小問					
24	13	(1)		○	②, ④(順不同, 完答)	1		88.2
					②, ③	2		0.5
					③, ④	3		6.7
					上記以外の解答	9		2.6
					無解答	0		2.0
25		(2)		○	③, ④(順不同, 完答)	1		65.9
					②, ③	2		5.6
					②, ④	3		3.6
					上記以外の解答	9		20.8
					無解答	0		4.1

[2] 出題のねらい

大問 13 は、「図形」領域の「いろいろな四角形」について出題した。

(1) は、「4つの辺の長さがすべて等しい四角形」を選ぶ問題で、図形についての知識・理解をみる問題である。

(2) は、「2本の対角線の長さが等しい四角形」を選ぶ問題で、図形についての知識・理解をみる問題である。

[3] 解説

(1) の正答率は 88.2%であった(昨年度は 88.0%)。示された図を基に選択することは、よくできている。

(2) の正答率は 65.9%であった(昨年度は 64.1%)。昨年度同様、(1) に比べて、正答率が低くなっている。自ら線をかき加え、判断していこうとする態度を育てていく必要がある。解答類型に当てはまらない誤答が 20.8% (昨年度は 21.9%) あった。対角線の長さではなく、対角線の交わり方ととらえたり、対角線の意味の理解が不十分であったりするためと考えられる。四角形の学習でも、これまでの図形の学習と同じように、構成要素に着目して、弁別・作図したり、身の回りから具体物を見つけたりする活動が大切である。

大問 14

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
26		(1)		○	①	1	76.7
					②	2	1.0
					③	3	1.1
					④	4	18.6
					上記以外の解答	9	0.2
					無解答	0	2.3
				27	14	(2)	
	(面)い	2	0.1				
	(面)い, (面)え	3	0.2				
	(面)い, (面)か	4	0.1				
	(面)う	5	2.3				
	(面)お, (面)か	6	0.3				
	上記以外の解答	9	12.0				
	無解答	0	7.0				

[2] 出題のねらい

大問 14 は、「図形」領域の「直方体」について出題した。

(1) は、直方体の正しい展開図を選ぶ問題で、図形についての知識・理解をみる問題である。

(2) は、直方体の中で垂直な面を探す問題で、図形についての知識・理解をみる問題である。

[3] 解説

(1) は、直方体の正しい展開図を選ぶ問題で、正答率は 76.7%であった。昨年度の 53.8%と比べると高くなっている。一方、面のつながる順序を考慮せず、見慣れている十字型の図を選んだ誤答は、昨年度よりは低くなっているものの、18.6%であった。見た目や直感のみで判断していると考えられる。判断したことが正しいかどうか、筋道を立てて吟味する姿勢や態度を育てていくことが大切である。また、立体の学習では、見取図や展開図で表す活動を取り扱うのはもちろんのこと、1つだけでなく、複数のものを取り扱うことも大切である。

(2) は、直方体のある面に垂直な面を選ぶ問題で、正答率は 78.0%であった。直方体の面の位置関係については、概ね理解できていると考えられる。(1) の展開図の学習とも関連するが、構成要素に着目して、立体を観察し、構成したり、分解したりする活動を通して理解を深めることが大切である。また、複数のものを選択する問題では、見落としがないように、順序よく調べる態度を養いたい。

大問 15

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中問	小問				
28	15			○	7(こ)	1	78.4
					4(こ)	2	0.3
					5(こ)	3	0.7
					6(こ)	4	3.2
					8(こ)	5	2.4
					上記以外の解答	9	10.7
					無解答	0	4.2

[2] 出題のねらい

大問 15 は、「数量関係」領域の「変わり方」を取り上げた。正方形の数が 1 個増えるとマッチ棒の数がどれだけ増えるかに着目し、伴って変わる 2 つの数量の関係をとらえることができるかをみる問題である。問題を把握し易くするために、途中までの変化の様子を表で表し、その先に入る値を求める形式とした。主たる観点は、数学的な考え方である。

[3] 解説

正答率は 78.4% で、昨年度の 43.3% から大きく上がった。昨年度は正三角形の 1 辺の長さが 1 cm 増えたときに増える色板の数が同じ数ずつではなかったため、伴って変わる 2 つの数量の関係をとらえることが難しかったようである。今年度は正方形の数が 1 個増えるとマッチ棒の数が 3 本ずつ（同じ数ずつ）増えるので、伴って変わる 2 つの数量の関係をとらえ易かったと考えられる。また、表では正方形の数が 3 個のところまで数値が入っていたことも 2 つの数量の関係をとらえるための一助となったと考えられる。ただし、類型に当てはまらない誤答が 10.7% あることから、「表を縦や横に見てきまりを見つければよい」や「表の続きを考えればよい」などの方法の見通しをもてなかった児童も多くいることが分かる。

変わり方のきまりを見つけるには、表を縦や横に見て、正方形の数が 1 個増えるごとにマッチ棒の数がいくつ増えるのか、その規則性を発見していこうとする態度が大切になってくる。表の扱い方についても、「表をかかせる」指導ではなく「表を使ってきまりを見つける、表の良さを体感する」指導が大切である。

また、日頃から、数感覚を磨いたり、きまりに気付いたり、きまりを見つけようとしたりする態度を育てていきたい。

大問 16

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中間	小問				
29	16			○	①②③を書いているもの。	1	32.9
				○	①②を書いているもの。	2	54.8
					①のみ または ①③のみを書いているもの。	3	2.0
					①と誤りを含む内容を書いているもの。	4	0.2
					②のみ または ②③のみを書いているもの。	5	0.4
					②と誤りを含む内容を書いているもの。	6	0.3
					上記以外の解答	9	2.4
					無解答	0	7.0

[2] 出題のねらい

大問 16 は、「数量関係」領域から「二次元表」を取り上げた。第 4 学年では、資料を 2 つの観点から分類整理し、折れ線グラフや二次元表に表す学習を行う。ここでは、二次元表の読み方に関する問題を出題した。二次元表に表された数値の意味を理解し、表の中の言葉を使って記述する問題である。主たる観点は、技能である。なお、正答の条件は、以下の①②③のすべて、または①②が書かれていることとした。

- ①生まれた年が 2001 年であること。
- ②性別が女であること。
- ③人数であること。

[3] 解説

正答率は 87.7% である。二次元表に表された数値の意味を理解し、表の中の言葉を使って記述することは概ねできていると言える。しかしながら、正答の表現①②③のすべてを書いているものは 32.9% にとどまっており、言語表現としては不十分なものも多く見られた。

今後も、実際のデータを基に表に整理する学習を通して、各欄の数値の意味などについて理解できるように、分類方法を丁寧に指導していくことが大切であると考えられる。また、日常の授業の中で、考え方や意味、理由などを説明する活動を通して、算数的表現はもちろんではあるが言語表現に目を向けていく必要もある。

二次元表については、他教科などでも目にする機会が多い。指導にあたっては、単に表の見方やかき方を定着させるだけでなく、物事を分類整理するよさを味わわせたり、論理的に考える力を伸ばしたりすることが大切である。

大問 17

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No	大問	中間	小問				
30	17			○	①②③④を満たしているもの。	1	15.5
				○	①②③を満たしているもの。	2	1.7
				○	①②④を満たしているもの。	3	4.7
				○	①③④を満たしているもの。	4	19.7
				○	①②を満たしているもの。	5	0.3
					①③を満たしているもの。	6	2.4
					図の正誤を問わず、示された式の操作のみを説明しているもの。	7	24.1
					①を満たしていて、説明が無解答のもの。	8	1.3
					上記以外の解答	9	19.5
					無解答	0	10.6

[2] 出題のねらい

大問 17 は、「量と測定」領域から「複合図形の面積」を取り上げた。提示された式から複合図形の面積の求め方を読み取り、図に表し文章で説明する問題である。主たる観点は数学的な考え方である。なお、正答の条件は、以下の①②③④のすべて、または①②③、①②④、①③④、①②が書かれていることとした。

- ① 図に線をかき込み、 $7\text{ cm} \times 2\text{ cm}$ 、 $4\text{ cm} \times 6\text{ cm}$ で面積が求められる2つの長方形に分けている。
- ② 「長方形」だととらえたことを説明している。
- ③ 図形を2つに「分けた」ことを説明している。
- ④ 2つを「合わせて」面積を求めたことを説明している。

[3] 解説

正答率は42.0%である。昨年度までは求め方を4つの選択肢から選ぶ形式の問題で、正答率が19年度68.2%、20年度74.0%、21年度78.8%、昨年度83.8%であったことを考えると、求め方を読み取ることはできているものの、それを説明する力は十分に身に付いていると言えない。

また、正答の中でも②がないものが19.7%、示された式の操作のみを説明している誤答が24.1%ある。日常の授業では、図を使いながら「ここが 7×2 で 14 cm^2 で…」などのように「ここが…」と説明し、既習である「長方形の面積」を基にして考えていることを意識しないままにいる児童も多くいると推察される。

与えられた図を式に表して処理する学習にとどまることなく、図と数や式を相互に結び付ける学習をこれからも大切にしていきたい。図を使って式の意味を説明する活動や、式を基に図で表す活動を、これからも重視していきたい。

(5) 今後の指導にあたって

○数と計算【大問1(1)～(4)(6)・2・3・4・5・8】

「数と計算」は、整数、小数、分数などの数の意味と表し方、数の計算などによって構成されている領域で、平均正答率は、69.2%であった。内容を見ると、小数と整数のたし算、小数同士のひき算や、整数と小数のかけ算に関する問題は、日頃の指導の成果から概ね満足できる結果であった。

一方、整数の割り進むわり算では、小数点の付け忘れの誤答が多いことが読み取れた。また、小数と整数のわり算の正答率も低いことから、わり算に苦手意識をもっている児童が多いことが読み取れる。どうやって計算するのか具体的な問題場面で考え、学習することが大切である。分数については、数直線上に表された1を超える大きさの分数を読み取ったり、整数と仮分数と帯分数の大小を比較したりすることに引き続き課題がある。1をいくつかに等分した何個分かの意味の指導を大切に、整数と同様に量を表す数として数直線に表したり読み取ったりする力を付けていきたい。一方、大きな数の十進位取り記数法についての出題は、イメージしにくい問題文に変えたためか、正答率が下がった。倍とわり算の問題では、数量関係をテープ図や線分図に表したり読み取ったりする指導が今後も必要である。

「数と計算」の内容は、「量と測定」、「数量関係」などの他の領域と深く関わりがあるので、重点を置いて指導していく必要がある。指導にあたっては、数の形式的な処理だけでなく、十進位取り記数法、0.1や単位分数の何個分かなどの数の意味もきちんとおさえていくことが大切である。さらに、わり算や分数、倍とわり算などの指導では、図や数直線などを用いて実感を伴ってとらえられるようにすることが大切である。

キーワード：図や数直線、十進位取り記数法、意味理解

○量と測定【大問10・11・17】

身の回りにおけるいろいろな量の意味、単位を用いての量の表し方、量の測定などによって構成されている領域である。平均正答率は、65.4%であった。面積を求める問題は概ね満足できる結果であった。日々の指導の成果が現れている。しかし、面積の量感や求め方を説明する問題では課題がみられた。cm²やm²だけでなくa、haの広さの単位の指導も大切にしたい。

複合図形の面積を求める問題は出題方法を変えたためか、正答率が下がった。与えられた図から式を立て面積を求めるだけでなく、普段の授業の中で、友だちの式や図を読み取って、その意味や考え方を説明するなど、図と式を相互に結び付ける活動を積極的に取り入れる指導を引き続き大切にしたい。

角度に関する問題は、角度の測定だけでなく、角度は直線の開き具合を表す量との定義を基に、1回転したら360度になることをつかむなど図形の学習と関連させながらの指導が大切である。

キーワード：図と式の相互関係、量感、操作、図形の学習との関連

○図形【大問12・13・14】

基本的な図形の意味、構成などに関する領域である。平均正答率は、72.9%であった。四角形の辺の長さに関する問題や、直方体の展開図を選択する問題、面の位置関係に関する問題は、概ね理解できていると言える。その一方で、三角定規を用いない平行四辺形の作図をする問題は、大きな課題である。

図形の学習は、辺、頂点、角、面などの構成要素に着目して図形を分類し、各図形を定義していく。そして、定義を基に、他にも当てはまる図形がないか考え、理解を深めていくことが大切である。低学年の頃から、いろいろな図形の合成・分解などを行わせ、図形に親しみ、豊かな感覚を育てる学習を取り入れたい。

作図の学習では、図形の定義や性質に基づいて、自分で作図の仕方を考える学習活動を大切にしていきたい。また、そこで考え出した方法が妥当かどうか、図形の定義や性質に基づいて根拠を説明する学習活動も充実させていきたい。作図の仕方の手順の理解だけでなく、図形の定義や性質に基づいて、何通りもの作図の仕方を筋道立てて考えるようにする指導が大切である。

キーワード：図形の構成要素、定義や性質に基づいて作図する

○数量関係【大問1(5)・6・7・9・15・16】

数量や図形を取り扱う際の共通の考え方や方法などによって構成される領域である。平均正答率は、71.9%であった。二次元表を読み取る問題は、87.7%と高い正答率となった。日頃の指導の成果が現れている。伴って変わる2つの数量の関係をとらえる問題は、正答率78.4%と良好であった。今後も、表を縦や横に見て規則性を発見していこうとする態度や、数のある数の和差積商としてみるなどの数に対する感覚を豊かにしていきたい。二次元表については、表を読み取るとともに、実際に二次元表をかく活動を通して、二次元表の意味の理解を深めていきたい。

計算の工夫に関する問題では、複合図形の面積を求める場面など、分配法則を用いて計算を工夫する良さを感じられる課題の設定を行うなどの必要がある。

式の指導では、計算方法だけでなく、立式の根拠を問い、どうしてその式になったのか、線分図や数直線などに表して考えるようにする指導が大切である。いろいろな場面や問題を式で表したり、式から場面や一般的な関係を読み取ったりする学習活動を日頃から行っていく必要がある。

キーワード：計算の工夫をする良さ、立式の根拠、式を読む

◎全体を通して

観点別に平均正答率を見てみると、「数学的な考え方」62.8%、「数量や図形についての技能」71.3%、「数量や図形についての知識・理解」67.8%であった。

「数学的な考え方」は、児童が新たな問題場面に直面し、既に獲得した知識や技能と関連させて考えたり、よりよい解決方法を吟味・検討したりする過程を大切にすることで育まれる。そして、児童が「知識・理解」、「技能」の力を活用し、主体的に粘り強く考えていくとき、「数学的な考え方」は大きな力を発揮するものと思われる。

これからも各観点を相互に関係付けながらバランスよく育んでいくことが大切である。

<数学的な考え方を育む授業づくりのポイント>

- 1 学習したことを用いて筋道立てて考え、言葉・数・式・図・表・グラフなどで表現する。
- 2 友だちの考え（式、図など）を読み取る。
- 3 自分や友だちの考えから相違点を見つけたり、整理したりして、考えと考えを結び付ける。
- 4 友だちと一緒に創り上げる。
（より単純に、より簡単に、より正確に、より便利に、より美しく）
- 5 どのように考えることが大切だったか振り返る。

教材研究の大切さはさることながら、児童同士が友だちの考えを読み取ったり、自分と友だちの考えを比べたりすることのできるような場の設定や授業構成、教師の言葉かけが大切である。児童の数学的な考え方を育てるためにも、日々の授業の仕方を考えていきたい。

3. 生活や学習についてのアンケート

調査の概要

1 調査の目的

川崎市の公立小学校に在籍する児童の生活や学習についての意識や実態を把握することにより、各学校における教育課程や指導方法等の改善に資するとともに、本市学校教育全体の充実に向けた基礎資料として活用する。

2 調査の設計

(1) 調査実施校及び対象者

市内公立小学校第5学年に在籍する全児童 *調査当日の欠席者を除く

(2) 調査校数及び回答者数

学校数：113校 回答者数：11,425名

(3) 調査実施日

平成23年5月10日（火）に川崎市学習状況調査の一環として、各教科の調査後に実施

(4) 調査方法

記名の質問紙法調査による

(5) 調査内容及び設問数

児童の生活と学習に関する意識と実態についての調査 45問

(6) 設問の主な観点及び視点

	観 点	視 点
1	学校生活に対する意識	楽しさ
2	学習全般に対する意識	好感度、必要性、理由、相談相手
3	各教科等に対する意識	好感度、理解度、有用感
4	家庭学習の実態	学習時間、学習内容、通塾
5	家庭生活の実態	睡眠時間、朝食の摂取、学習の準備、 テレビ・ビデオ・ゲームの視聴・実施時間 1ヶ月の読書量、携帯電話の有無
6	各教科等に対する意識・実態	学習内容・方法に対する好感度 日常生活への活用や関連 等

3 調査結果の集計・分析にあたっての留意事項

(1) 単純集計及び分析

- ① 2の(6)にある「設問の観点」ごとに項立てを行い、分析を行った。
- ② 設問ごとに集計結果をグラフで表し、考察を加えた。
- ③ 一部の設問では昨年度・一昨年度の結果を併記して、経年比較分析を行った。

(2) クロス集計及び分析

いくつかの設問については、クロス集計という手法を用いて分析した。これは、設問Aでの選択肢ごとに設問Bの回答を集計することで、設問Aでの回答選択の違いを設問Bで説明する方法である。このことにより、設問Aと設問Bの二つの設問の間の関連や相関関係などを分析した。なお、クロス集計では、集計の都合上無回答者を除いて集計した。

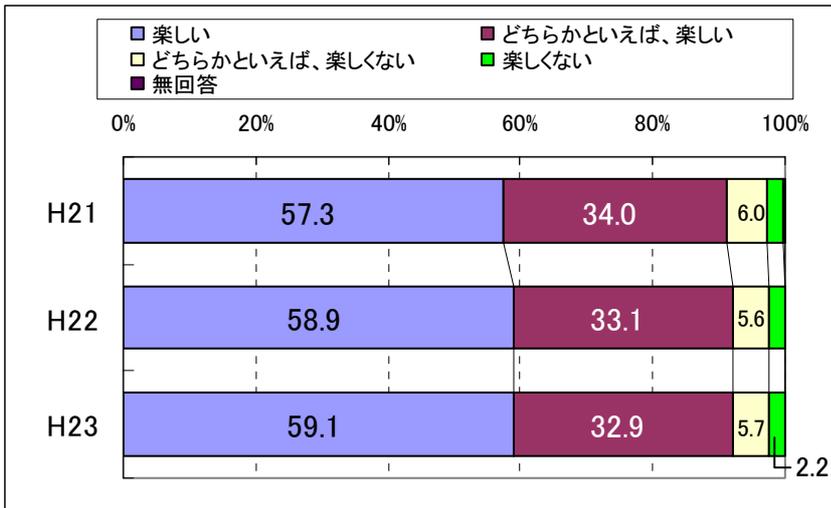
- (3) 各グラフには、見易さを考慮して調査結果の割合の数値を記入しきれていないものがある。単純集計については、「資料 調査結果集計表」の該当設問の数値でご確認願いたい。

調査結果と分析

単純集計

1 学校生活に対する意識

学校生活の楽しさ【問1】

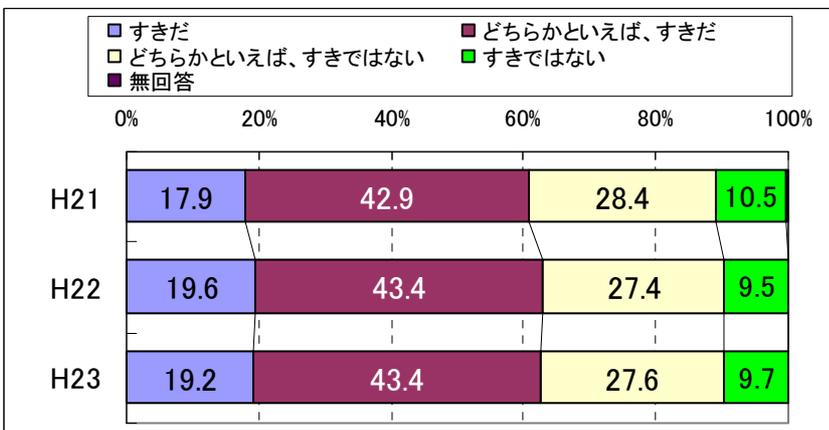


○59.1%の児童が、学校生活は「楽しい」と回答しており、「どちらかといえば、楽しい」を合わせると 92.0% となり、9割を超える。

○22年度に比べ、「楽しい」と「どちらかといえば、楽しい」を合わせた回答は同値であるが、「楽しい」と回答した児童が 0.2 ポイント増加している。

2 学習全般に対する意識

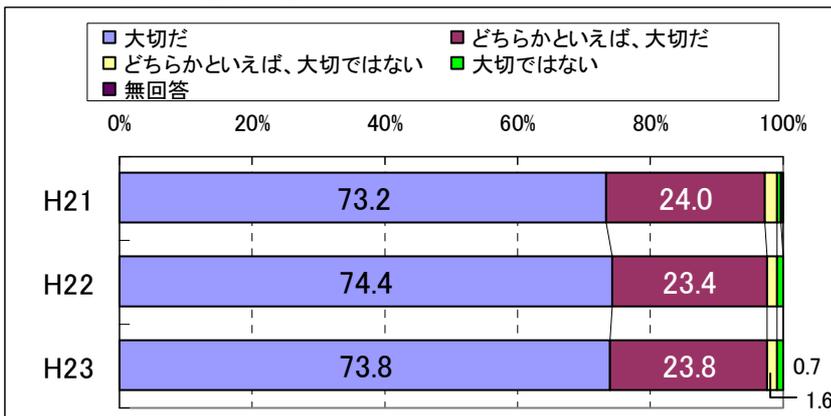
(1) 好感度【問2】



○19.2%の児童が、勉強は「すきだ」と回答しており、「どちらかといえば、すきだ」を合わせると 62.6%である。

○22年度に比べ、「すきだ」と「どちらかといえば、すきだ」を合わせた回答が 0.4 ポイント減少している。

(2) 必要性【問3】

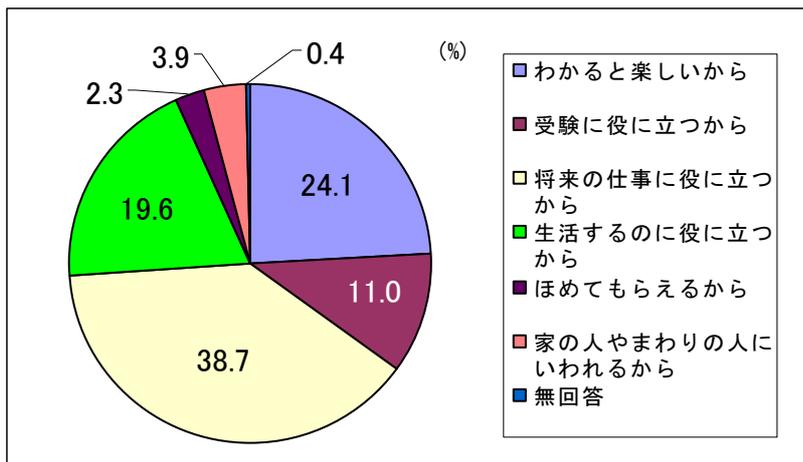


○73.8%の児童が、勉強は「大切だ」と回答しており、「どちらかといえば、大切だ」を合わせると 97.6%である。

○22年度に比べ、勉強は「大切だ」と「どちらかといえば、大切だ」を合わせた回答が 0.2 ポイント減少している。

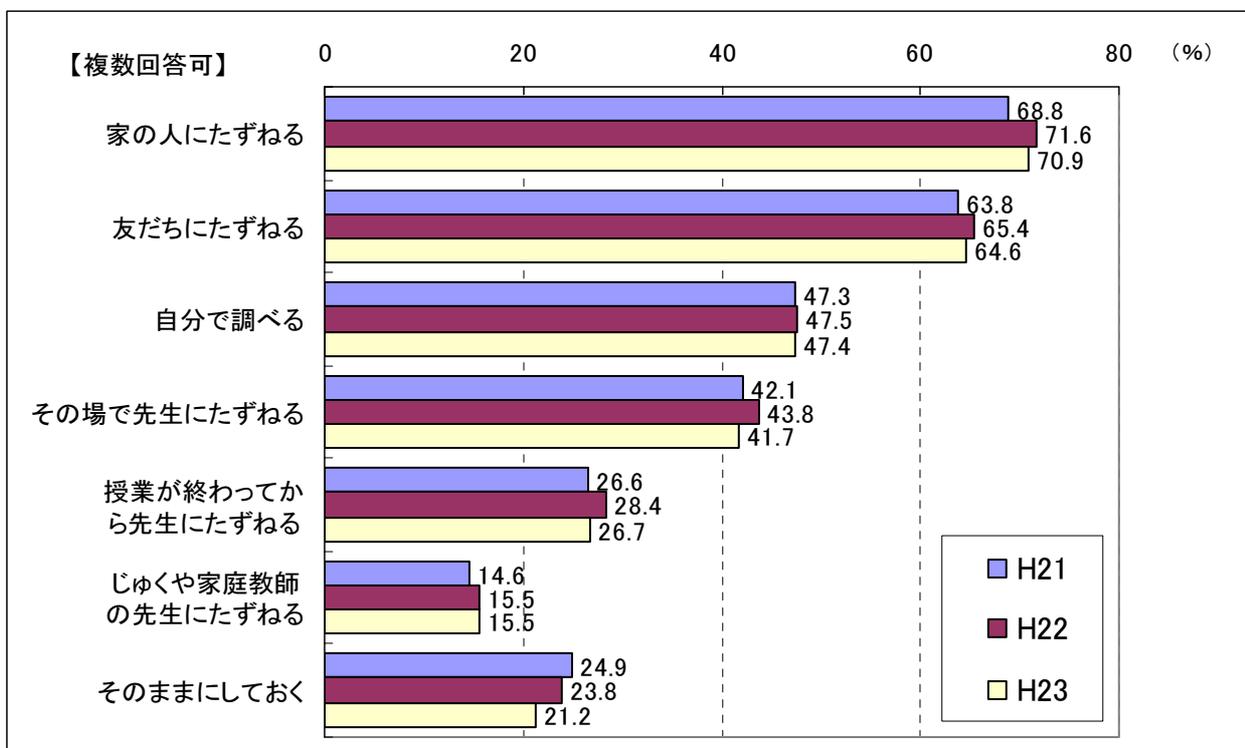
II 調査結果の概要

(3) 理由【問4】



○勉強する一番の理由として、「将来の仕事に役に立つから」、「生活するのに役に立つから」を合わせると58.3%で、ほぼ6割である。
○「わかると楽しいから」(24.1%)という回答も比較的多い。

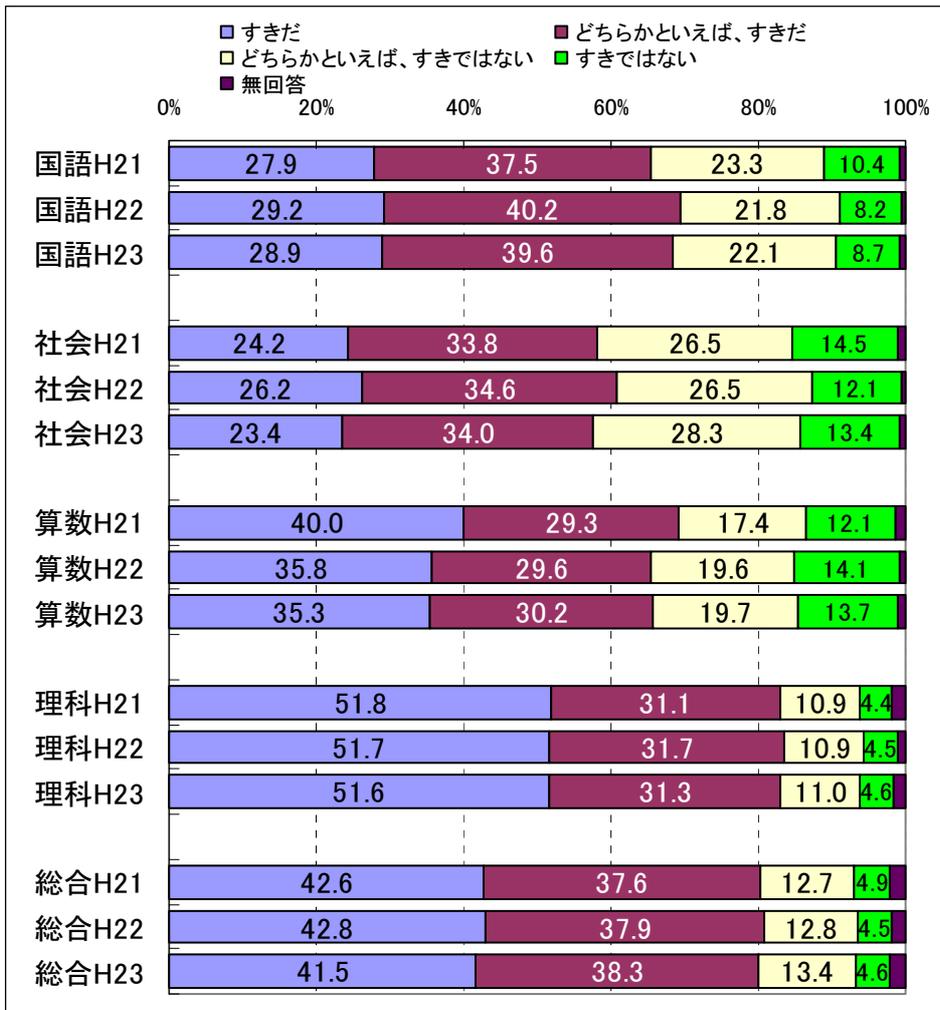
(4) 相談相手【問19】



○「授業の中でわからないことがあったときに相談する相手」として、「家の人」を選んでいる児童が70.9%と最も多く、「友だち」の64.6%が続いている。
○「家の人にたずねる」、「友だちにたずねる」は22年度とほぼ同値である。
○22年度に比べ、「その場で先生にたずねる」という回答が2.1ポイント減少している。
○22年度に比べ、「そのままにしておく」という回答が2.6ポイント減少している。

3 各教科等に対する意識

(1) 好感度【問5～9】



○好感度(「好きだ」と「どちらかといえば、好きだ」を合わせた割合)が最も高いのは、

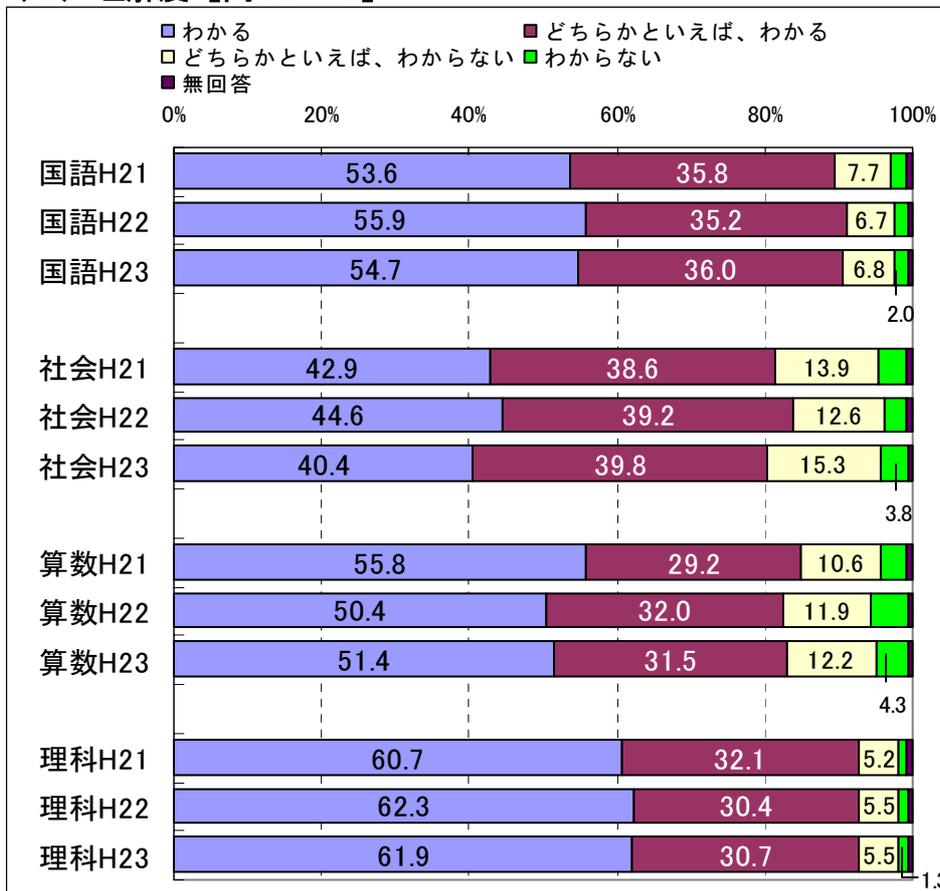
「理科」で82.9%、次に、

「総合」(79.8%)、「国語」(68.5%)、「算数」(65.5%)、「社会」(57.4%)と続いている。

○過去3年間の各教科平均は、

「国語」が67.8%、「社会」が58.7%、「算数」が66.7%、「理科」が83.1%、「総合」が80.2%である。

(2) 理解度【問10~13】



○理解度(「わかる」と「どちらかといえば、わかる」を合わせた割合)が最も高いのは、

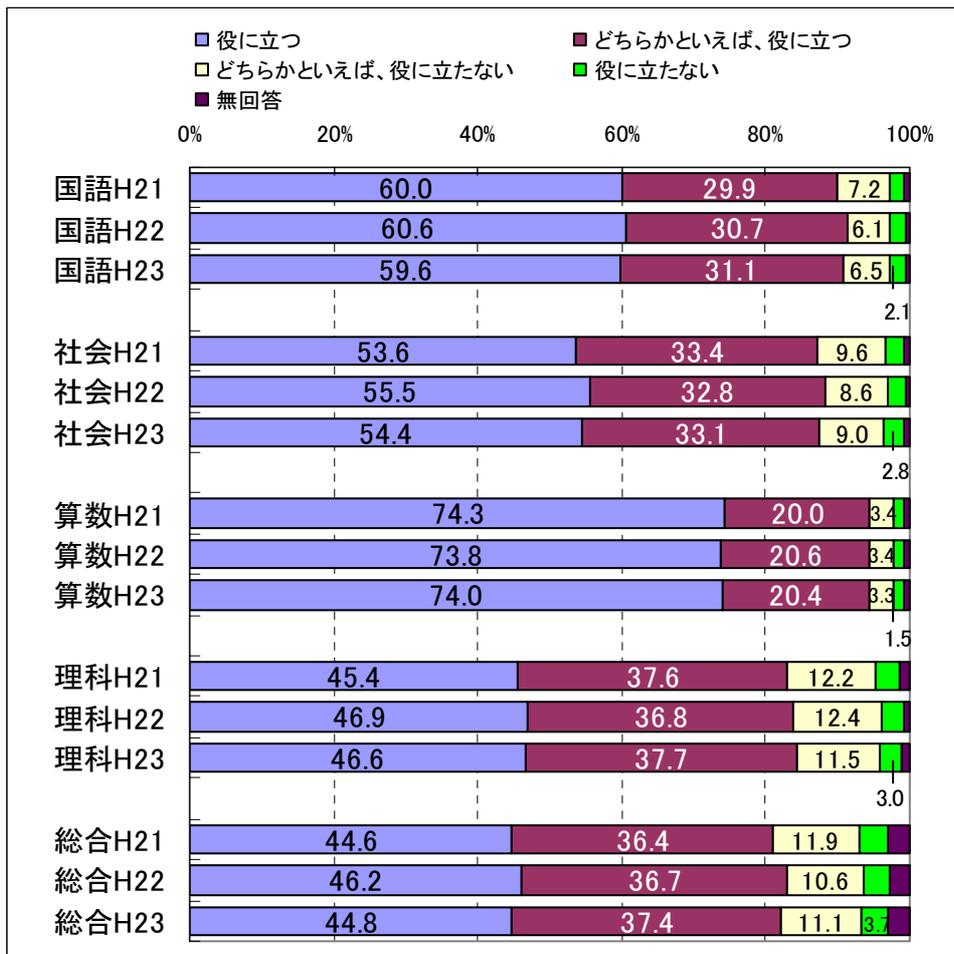
「理科」で92.6%、次に、

「国語」(90.7%)、「算数」(82.9%)、「社会」(80.2%)と続いている。

○過去3年間の各教科平均は、

「国語」が90.4%、「社会」が81.8%、「算数」が83.4%、「理科」が92.7%である。

(3) 有用感【問 14~18】

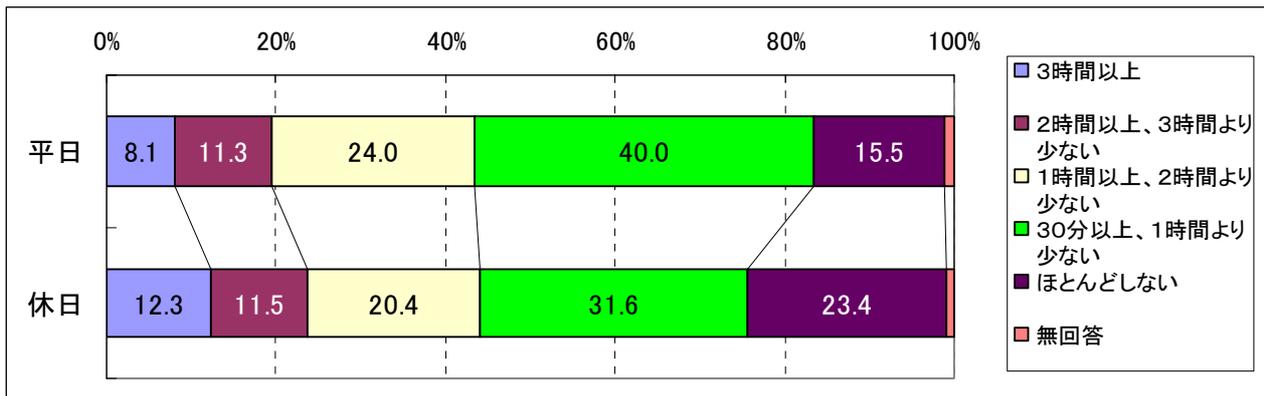


○学習に対する有用感（「役に立つ」と「どちらかといえば、役に立つ」を合わせた割合）が最も高いのは、「算数」で94.4%、次に、「国語」（90.7%）、「社会」（87.5%）、「理科」（84.3%）、「総合」（82.2%）と続いている。

○過去3年間の各教科平均は、「国語」が90.6%、「社会」が87.6%、「算数」が94.4%、「理科」が83.7%、「総合」が82.0%である。

4 家庭学習の実態

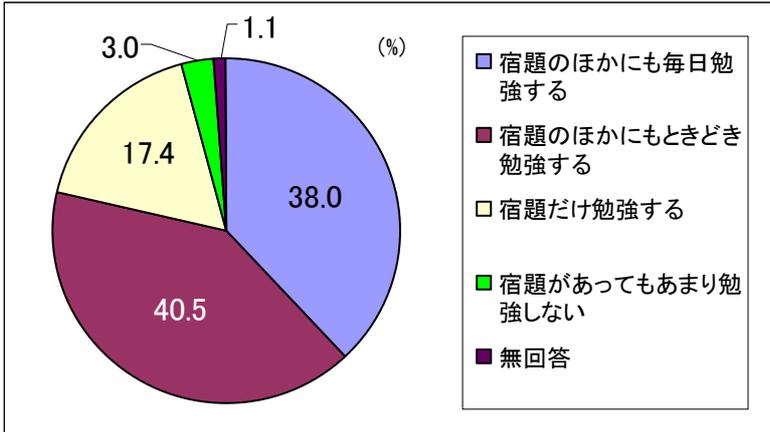
(1) 学習時間【問 20~21】



○平日、休日とも「30分以上、1時間より少ない」が最も多く、「1時間以上、2時間より少ない」を合わせると、平日では64.0%、休日では52.0%である。

○「ほとんどしない」という回答は、平日は15.5%、休日は23.4%であり、休日の方が7.9ポイント高い。一方、「3時間以上」と回答した比較的勉強時間が長い児童の割合も、休日の方が平日より4.2ポイント高い。

(2) 学習内容【問 22】



○「宿題のほかにもときどき勉強する」が 40.5%で最も多く、「宿題のほかにも毎日勉強する」が 38.0%で続いている。

○「宿題があってもあまり勉強しない」と回答した児童は 3.0%である。

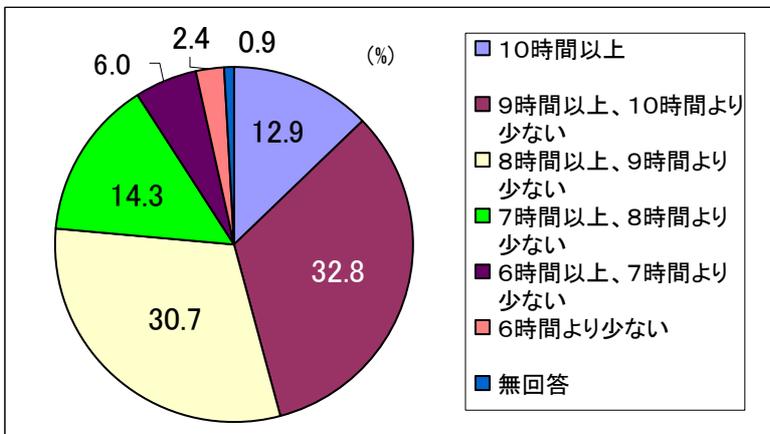
(3) 通塾【問 23】 (%)

	通っている	通っていない	無回答
H21	51.4	46.7	2.0
H22	51.2	47.5	1.4
H23	51.5	47.3	1.2

○学習塾に通っている児童は 51.5%で、22 年度に比べ、0.3 ポイント増加している。

5 家庭生活の実態

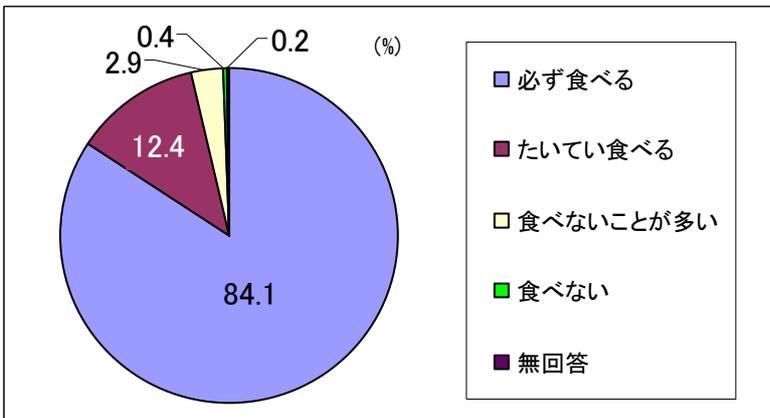
(1) 睡眠時間【問 24】



○「9時間以上、10時間より少ない」(32.8%)、「8時間以上、9時間より少ない」(30.7%)という回答が多く、約6割の児童は睡眠時間が「8～10時間」である。

○睡眠時間が7時間未満の児童の割合は 8.4%で、1割未満である。

(2) 朝食の摂取【問 25】

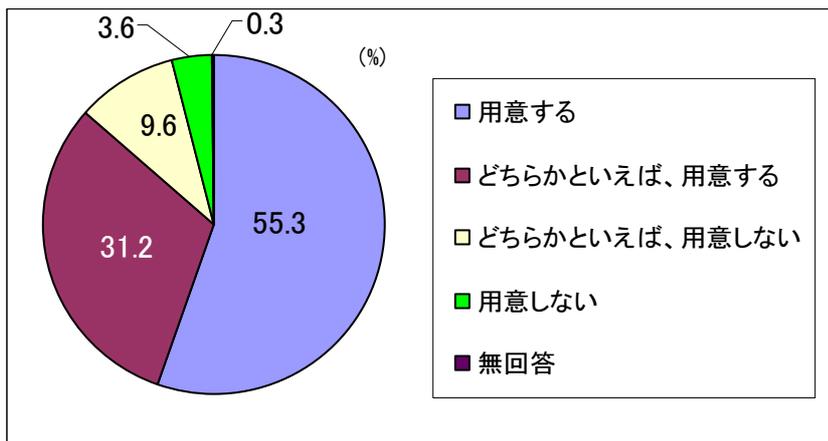


○「必ず食べる」と回答している児童の割合は 84.1%であり、「たいてい食べる」を合わせると、96.5%である。

○「食べない」と回答した児童は 0.4%である。

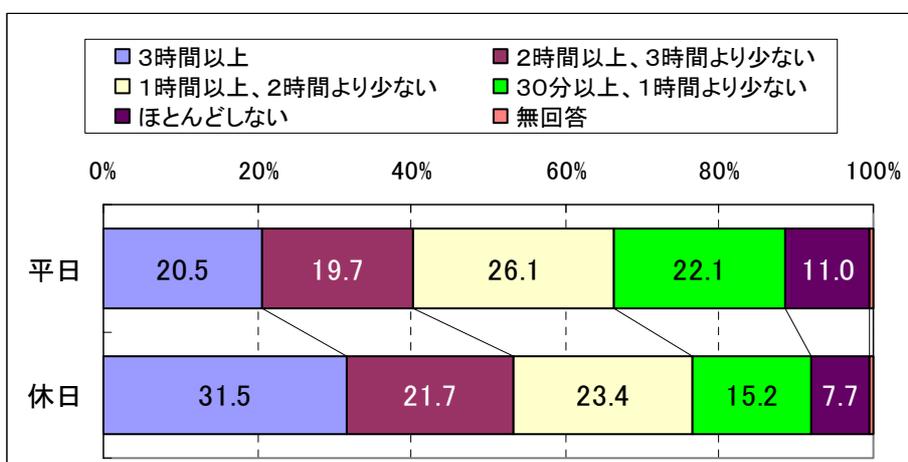
II 調査結果の概要

(3) 学習の準備【問 26】



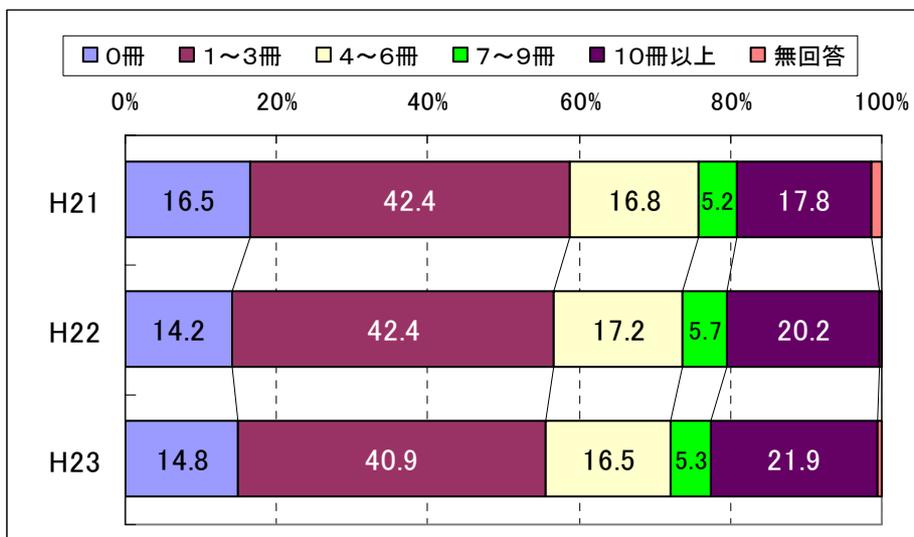
○学校に持って行くものを前日に「用意する」と回答した児童の割合は55.3%であり、「どちらかといえば、用意する」を合わせると、86.5%である。

(4) テレビ・ビデオ・ゲームの視聴・実施時間【問 27~28】



○視聴・実施時間が「1時間以上」の回答の合計は、平日：66.3%、休日：76.6%である。
○「3時間以上」は、平日は20.5%、休日は31.5%で、22年度に比べ、どちらも0.6ポイント増加している。
(P. 68 問 27, 28 を参照)

(5) 1ヶ月の読書量【問 30】



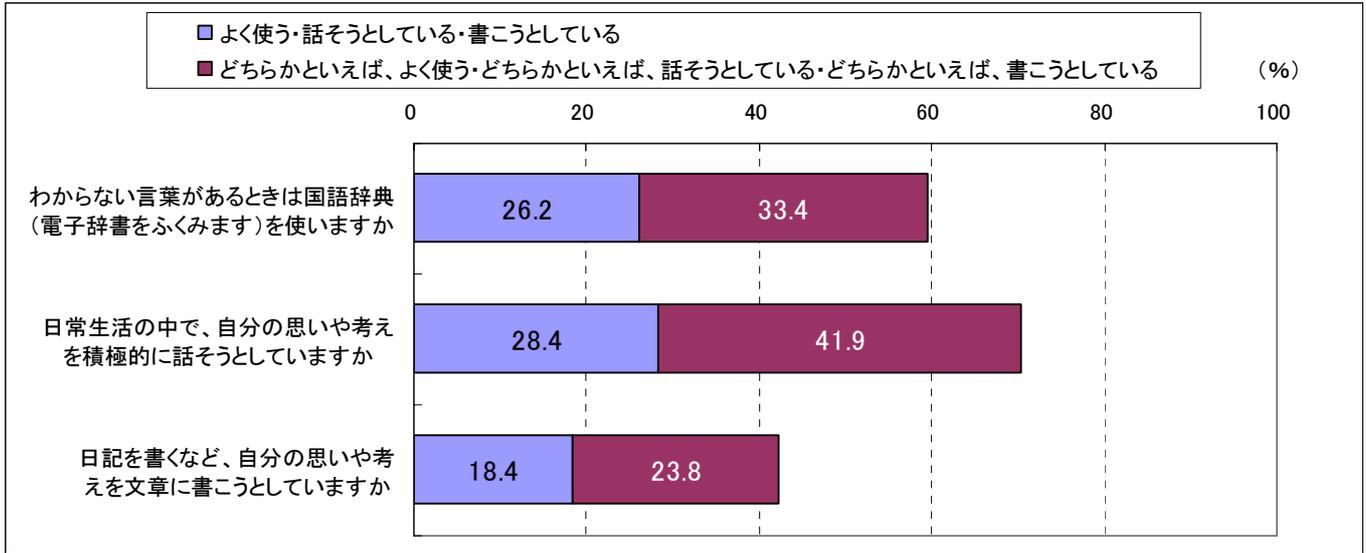
	平均冊数
H21	4.7 冊
H22	5.1 冊
H23	5.4 冊

*31冊以上の回答は集計から除外しています。

○「1~3冊」が40.9%で最も多く、「10冊以上」が21.9%、「4~6冊」が16.5%である。1冊も読まない児童の割合は14.8%である。
○22年度に比べ、「10冊以上」が1.7ポイント増加している。「0冊」は0.6ポイント増加している。平均冊数は5.1冊から0.3冊増加し、5.4冊である。

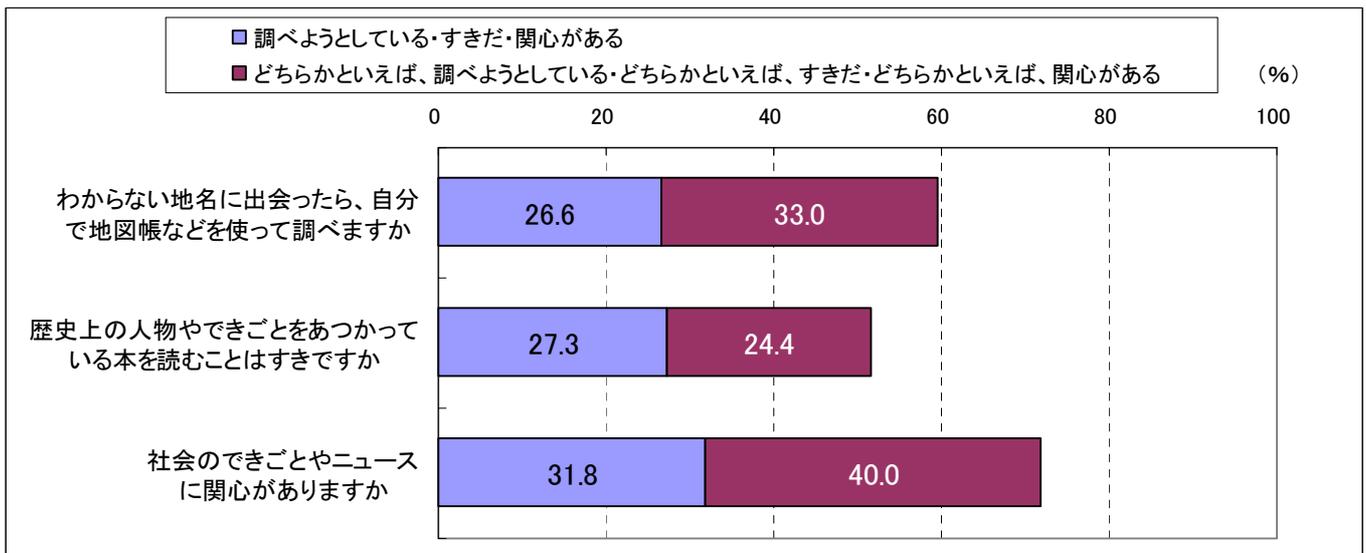
6 各教科等に対する意識・実態

(1) 国語【問 31～33】



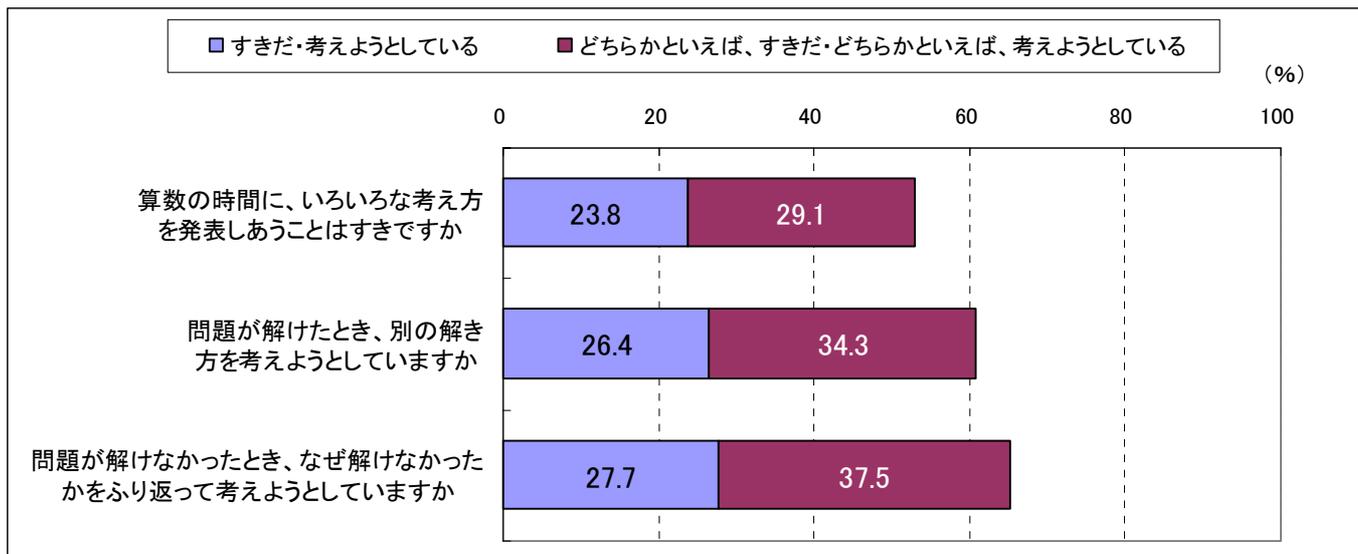
- わからない言葉があるときに国語辞典を使う児童は、「どちらかといえば」を含めると、59.6%である。
- 「自分の思いや考え」を積極的に話そうとしている児童、文章に書こうとしている児童は、「どちらかといえば」を含めると、それぞれ70.3%、42.2%である。「書くこと」よりも「話すこと」で自分の思いや考えを伝えようとしている児童が多い。

(2) 社会【問 34～36】



- 自分で地図帳などを使って地名を調べる児童は、「どちらかといえば」を含めると、59.6%である。
- 歴史に関する本を読むことが好きな児童は、「どちらかといえば」を含めると、51.7%である。
- 社会事象やニュースに関心がある児童は多く、「どちらかといえば」を含めると、71.8%である。

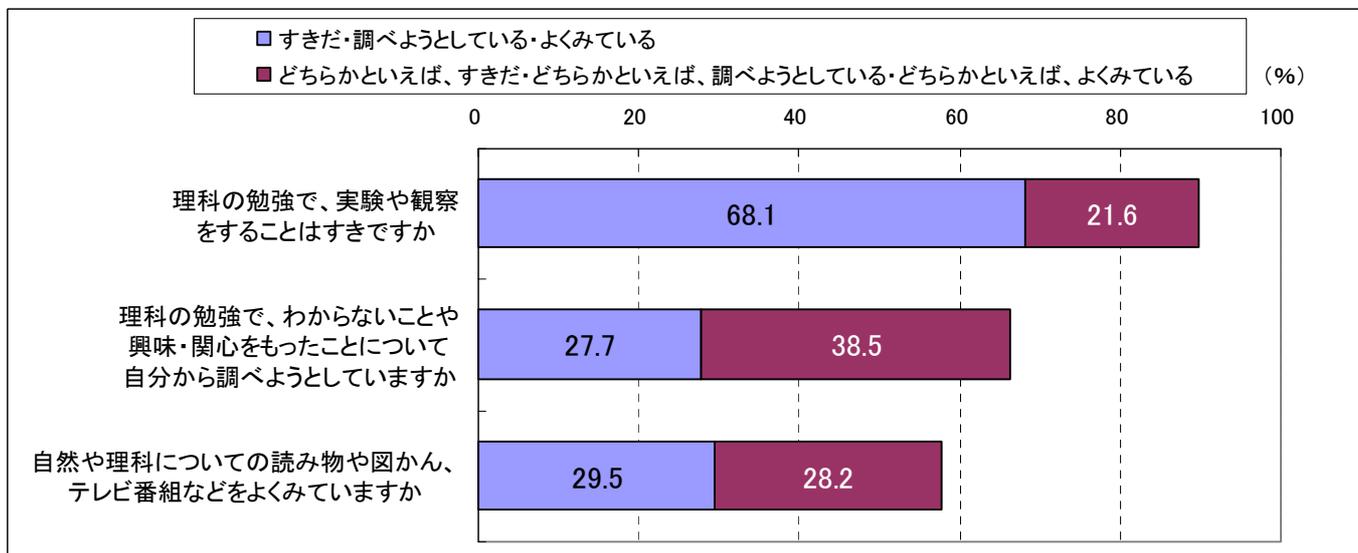
(3) 算数【問 37~39】



○いろいろな考え方を発表しあうことが好きな児童は、「どちらかといえば」を含めると、52.9%である。

○問題が解けたときに別の解き方を考えようとしている児童、解けなかったときにその理由を考えようとしている児童は、「どちらかといえば」を含めると、それぞれ 60.7%、65.2%である。

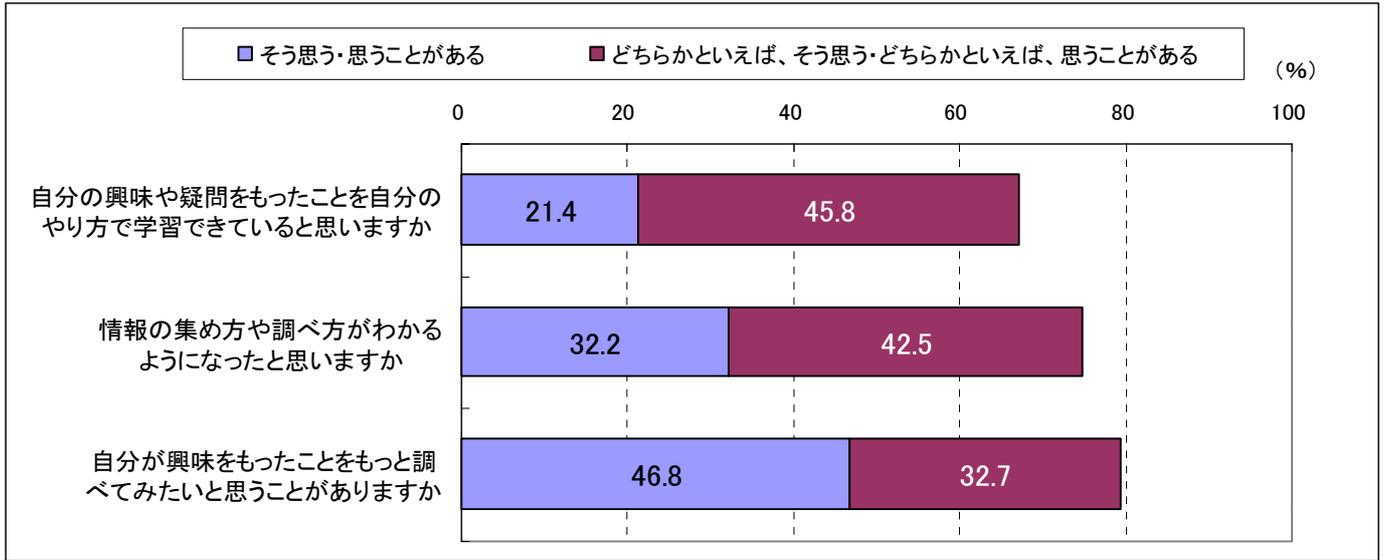
(4) 理科【問 40~42】



○理科の実験や観察の授業が好きな児童が多く、「好きだ」が 68.1%、「どちらかといえば、好きだ」を含めると、89.7%である。

○分からないことや興味・関心をもったことを自分から調べようとする児童、自然や理科に関する読み物や図鑑、テレビ番組などをみている児童は、「どちらかといえば」を含めると、それぞれ 66.2%、57.7%である。

(5) 総合的な学習の時間【問 43~45】

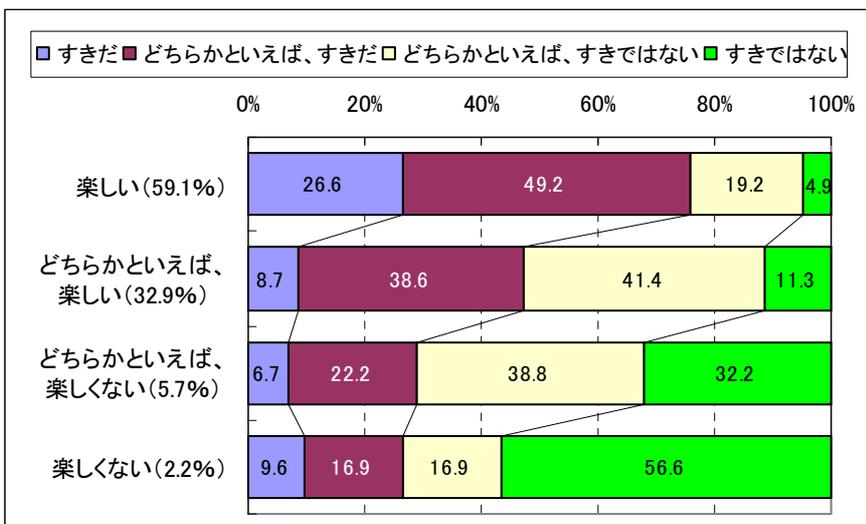


○総合的な学習の時間の中で、「興味や疑問をもったことを自分のやり方で学習できている」と思っている児童、「情報の集め方や調べ方がわかるようになった」と思っている児童は、「どちらかといえば」を含めると、それぞれ 67.2%、74.7%である。

○「興味をもったことについてもっと調べてみたいと思う」と回答している児童は多く、「どちらかといえば」を含めると、79.5%である。

クロス集計

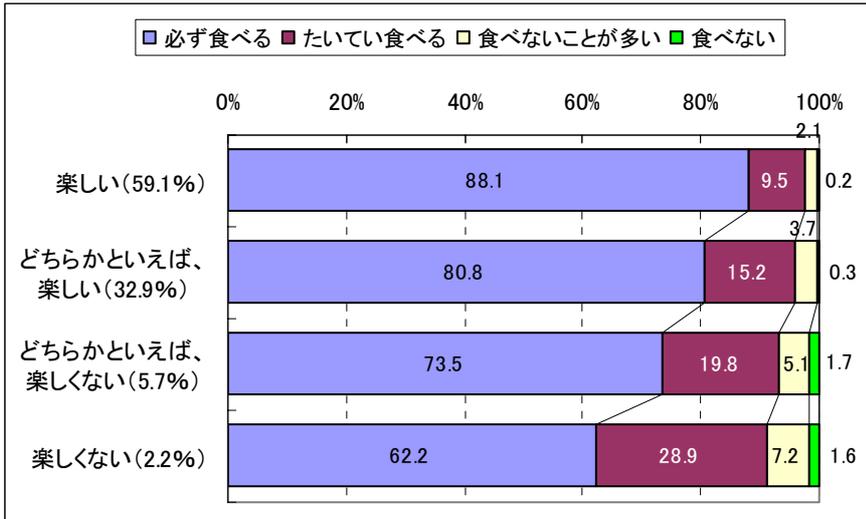
1 学校生活の楽しさ【問 1】×学習に対する好感度【問 2】



○学校生活が楽しい児童ほど、学習に対する好感度が高い傾向がある。

○学校生活は「楽しくない」と回答した児童の 73.5%、「どちらかといえば、楽しくない」と回答した児童の 71.0%が勉強は「すきではない」、「どちらかといえば、すきではない」と答えている。

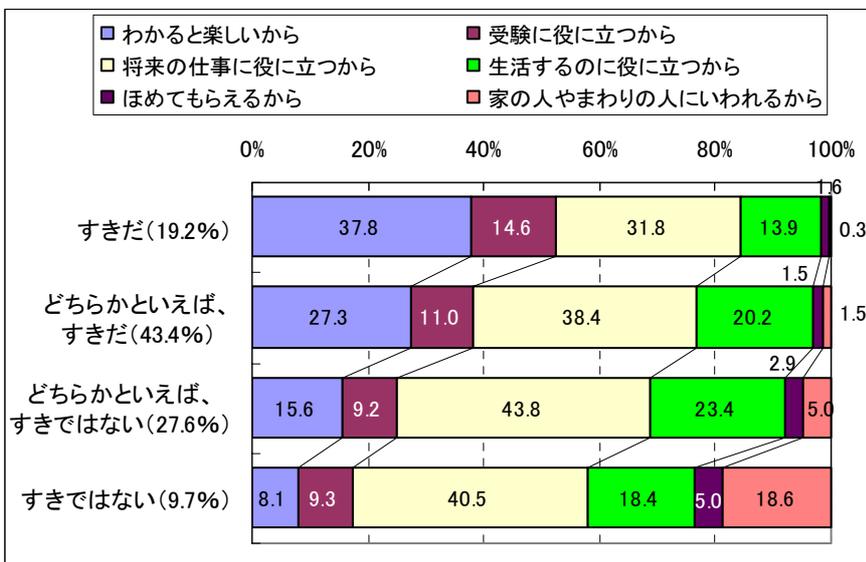
2 学校生活の楽しさ【問1】×朝食の摂取【問25】



○学校生活が楽しい児童は、朝食の摂取状況が良好な状況にある。

○学校生活は「楽しくない」と回答した児童の朝食を必ず食べる割合は、「楽しい」と答えた児童の朝食を必ず食べる割合よりも25.9ポイント低い。

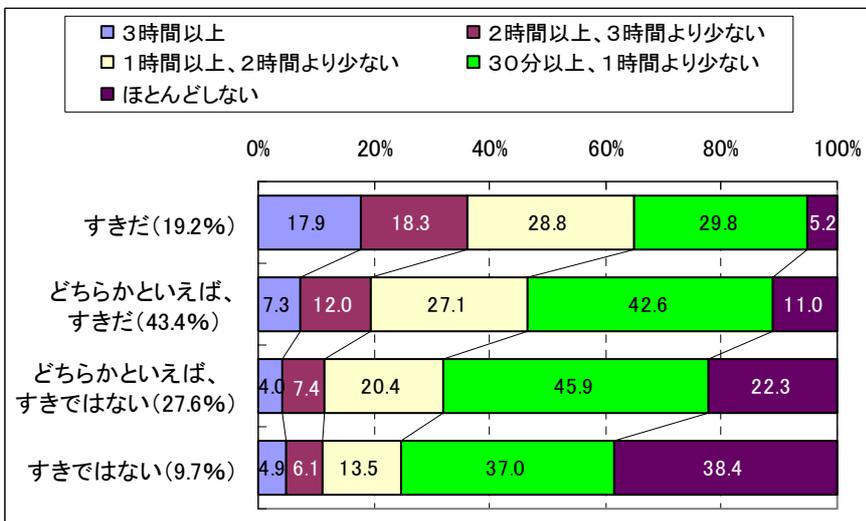
3 学習に対する好感度【問2】×勉強する理由【問4】



○好感度が高い児童ほど、「わかると楽しいから」と回答する割合が多い。「すきだ」と回答した児童と「すきではない」と答えた児童では29.7ポイントの差がある。

○「すきではない」と回答した児童の18.6%が勉強する理由として、「家の人やまわりの人にいわれるから」を選んでおり、他と比べて多い。

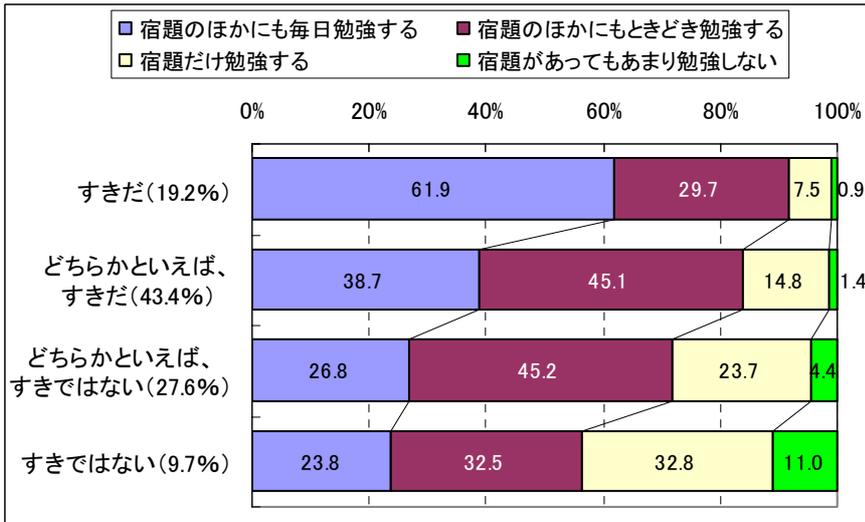
4 学習に対する好感度【問2】×家庭学習時間(平日)【問20】



○好感度が高い児童ほど、平日の家庭学習時間が長い傾向にある。

○勉強が「すきではない」と回答した児童の約6割が30分以上の家庭学習を行っている。

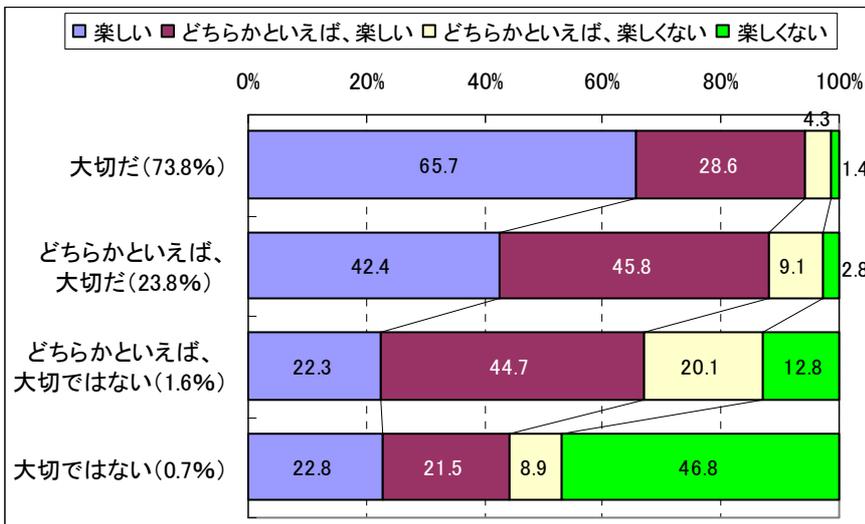
5 学習に対する好感度【問2】 × 家庭学習の内容【問22】



○勉強が「好きだ」と回答した児童の61.9%は、「宿題のほかに毎日勉強する」と回答している。

○「好きではない」と回答した児童の56.3%が宿題のほかに勉強をしている。

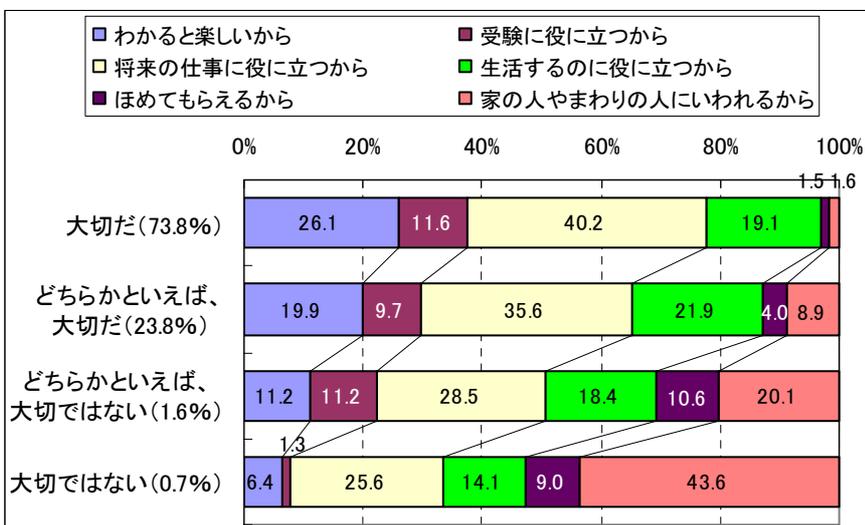
6 学習の必要性【問3】 × 学校生活の楽しさ【問1】



○学習に対する必要性を感じている児童ほど、学校生活を楽しいと感じている傾向がある。

○勉強が「大切ではない」と回答した児童のうち、55.7%は学校生活が「楽しくない」、「どちらかといえば、楽しくない」と回答している。

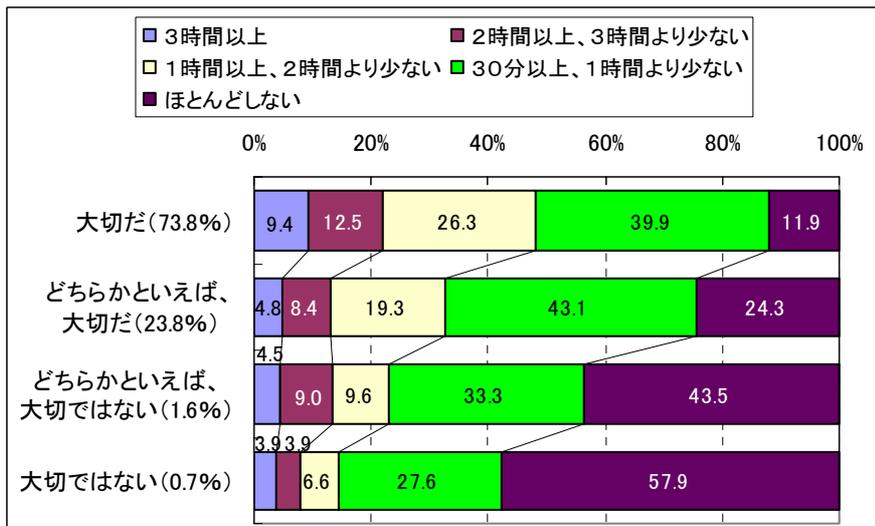
7 学習の必要性【問3】 × 勉強する理由【問4】



○学習に対する必要性を感じている児童ほど、「将来の仕事に役に立つから」や「わかると楽しいから」を勉強する理由に選んでいる割合が高い。

○学習が「大切ではない」と回答した児童のうち、43.6%が勉強する理由として「家の人やまわりの人にいわれるから」を選んでいる。

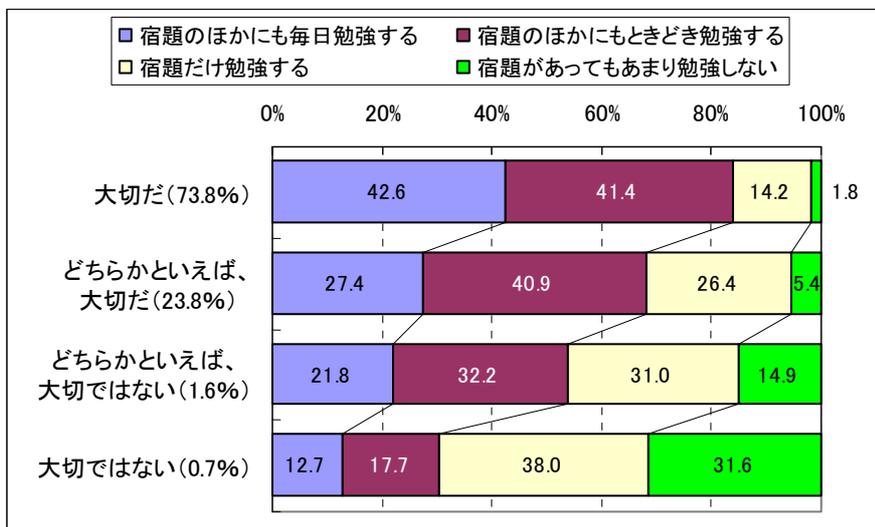
8 学習の必要性【問3】×家庭学習時間（平日）【問20】



○平日に家庭学習をしている割合は、学習に対する必要性を感じている児童ほど高い。

○勉強が「大切だ」、「どちらかといえば、大切だ」と回答した児童の家庭学習時間で一番多いのは、「30分以上、1時間より少ない」である。

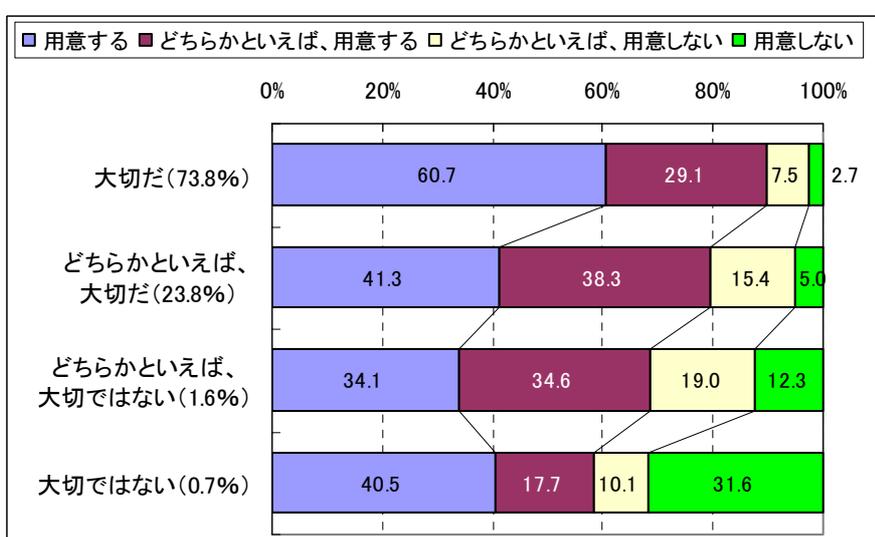
9 学習の必要性【問3】×家庭学習の内容【問22】



○勉強が「大切だ」と回答した児童のうち、84.0%が、宿題のほかに毎日またはときどき勉強すると回答している。

○勉強が「大切ではない」と回答した児童のうちの31.6%は「宿題があってもあまり勉強しない」と回答している。

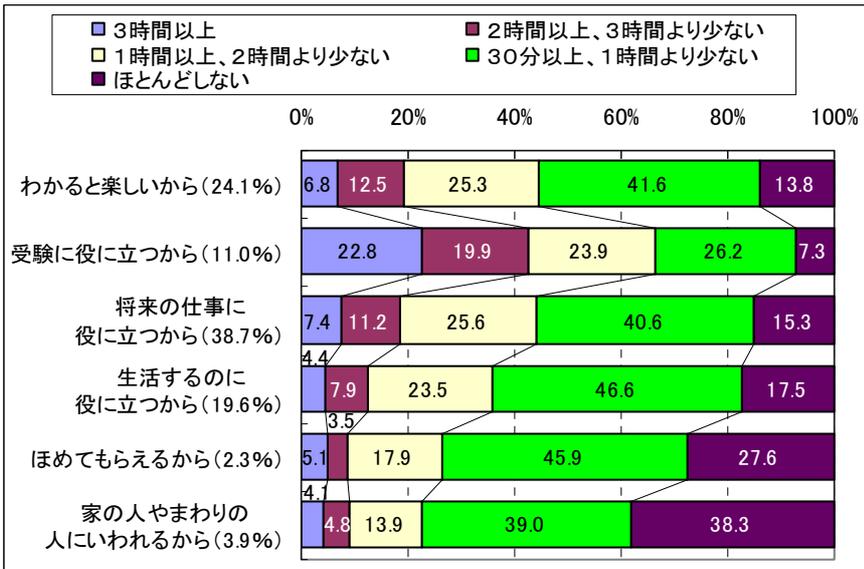
10 学習の必要性【問3】×学習の準備【問26】



○学習に対する必要性を感じている児童ほど、前日に学校の持ち物を準備する傾向が見られる。

○勉強が「大切だ」と回答した児童の約9割が、前日に学校の持ち物を「用意する」、「どちらかといえば、用意する」と回答している。

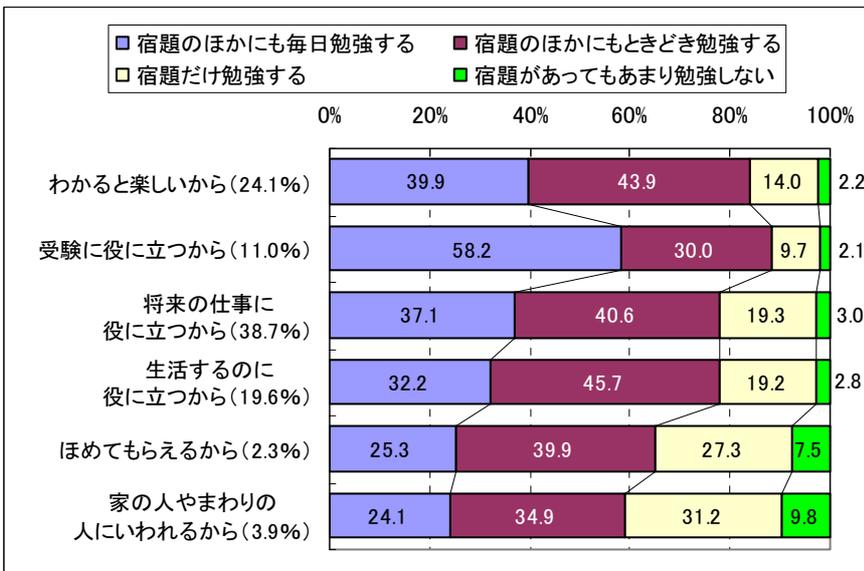
11 勉強する理由【問4】×家庭学習時間（平日）【問20】



○勉強する理由として「受験に役に立つから」を選んだ児童は勉強時間が長い傾向がある。

○勉強する理由として「家の人やまわりの人にいわれるから」を選んだ児童の38.3%が、勉強を「ほとんどしない」と回答している。

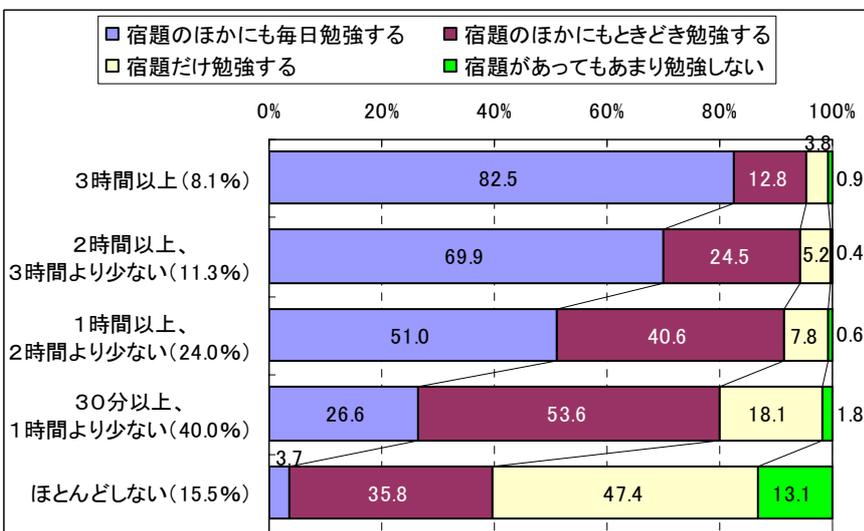
12 勉強する理由【問4】×家庭学習の内容【問22】



○「将来の仕事に役に立つから」、「生活するのに役に立つから」と回答した児童のうち、「宿題のほかに毎日勉強する」、「宿題のほかにもときどき勉強する」と回答した児童はそれぞれ77.7%、77.9%である。

○「家の人やまわりの人にいわれるから」と回答した児童では、9.8%が「宿題があってもあまり勉強しない」と回答している。

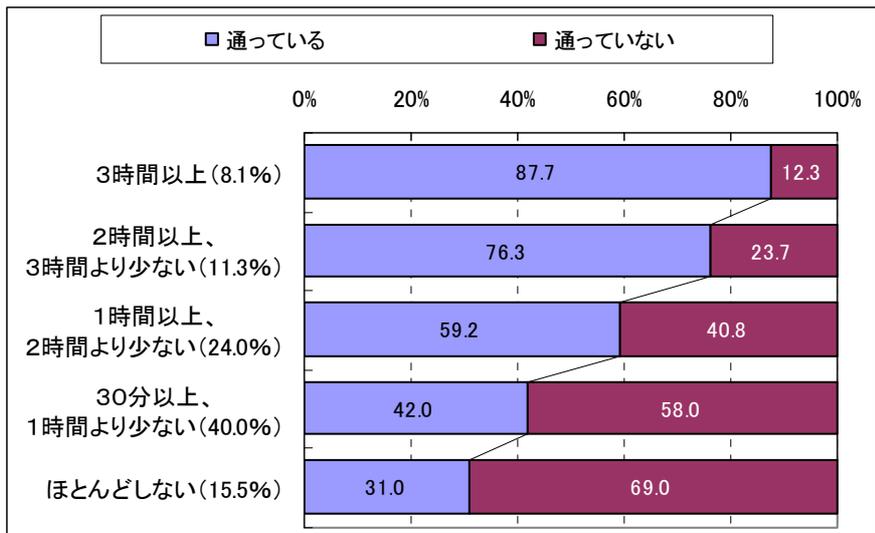
13 家庭学習時間（平日）【問20】×家庭学習の内容【問22】



○平日の家庭学習時間が長い児童ほど、宿題のほかに毎日勉強している傾向がある。

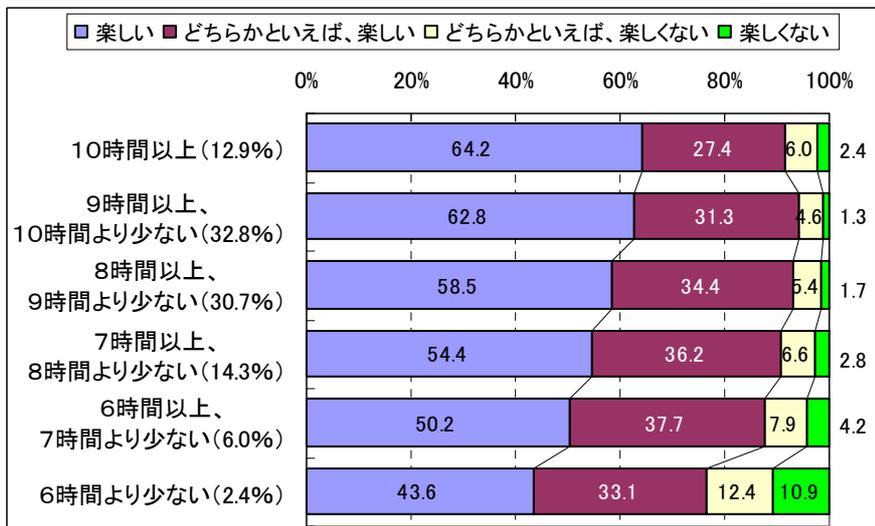
○「ほとんどしない」と回答した児童では47.4%が「宿題だけ勉強する」、13.1%が「宿題があってもあまり勉強しない」と回答している。

14 家庭学習時間（平日）【問 20】 × 通塾【問 23】



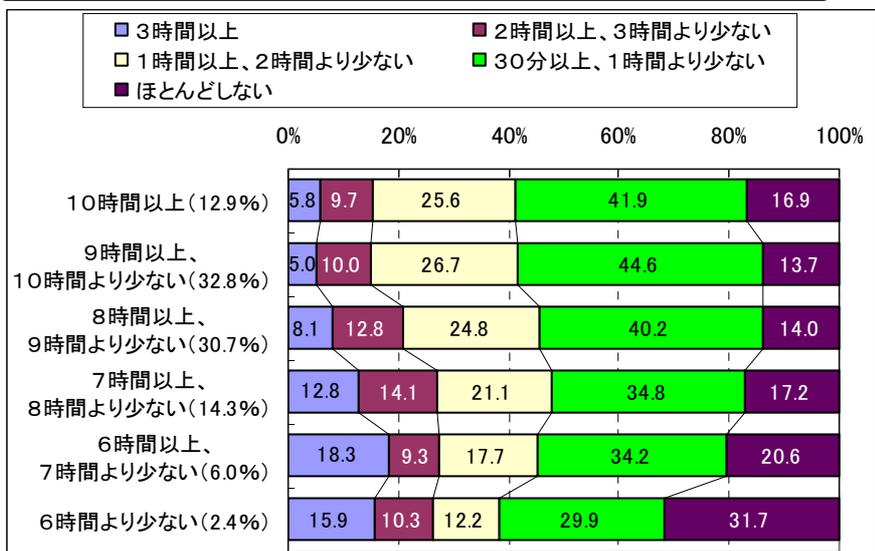
○平日の学習時間が長い児童ほど、学習塾に通っている割合が高い。
 ○家庭学習時間が「3時間以上」、「2時間以上、3時間より少ない」の中で、通塾者の占める割合は、それぞれ 87.7%、76.3% である。

15 睡眠時間【問 24】 × 学校生活の楽しさ【問 1】



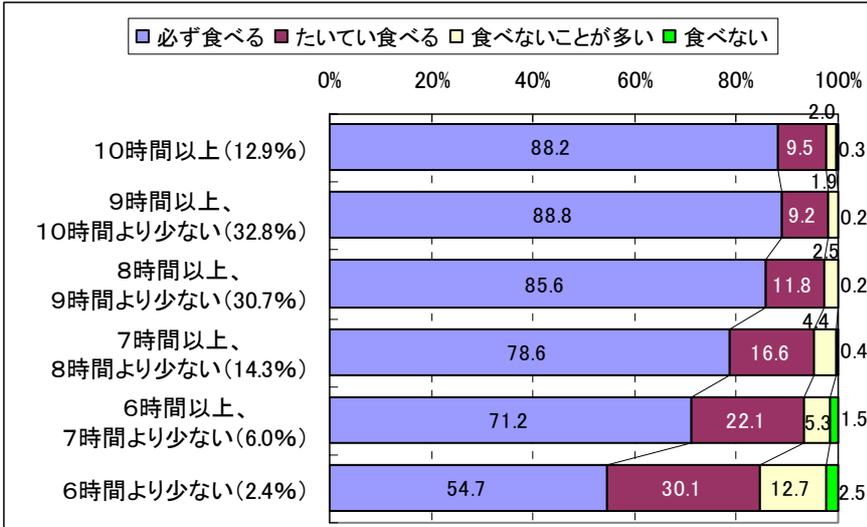
○睡眠時間が長い児童ほど、学校生活が「楽しい」と回答している。
 ○睡眠時間が「6時間より少ない」と回答した児童の 23.3%が、学校生活は「楽しくない」、「どちらかといえば、楽しくない」と回答している。

16 睡眠時間【問 24】 × 家庭学習時間（平日）【問 20】



○睡眠時間が「6時間以上、7時間より少ない」と回答した児童の 18.3%が家庭での学習を「3時間以上」と回答していて、どの睡眠時間帯よりも多くなっている。
 ○睡眠時間が「6時間より少ない」と回答した児童の 31.7%が家庭での学習を「ほとんどしない」と回答している。

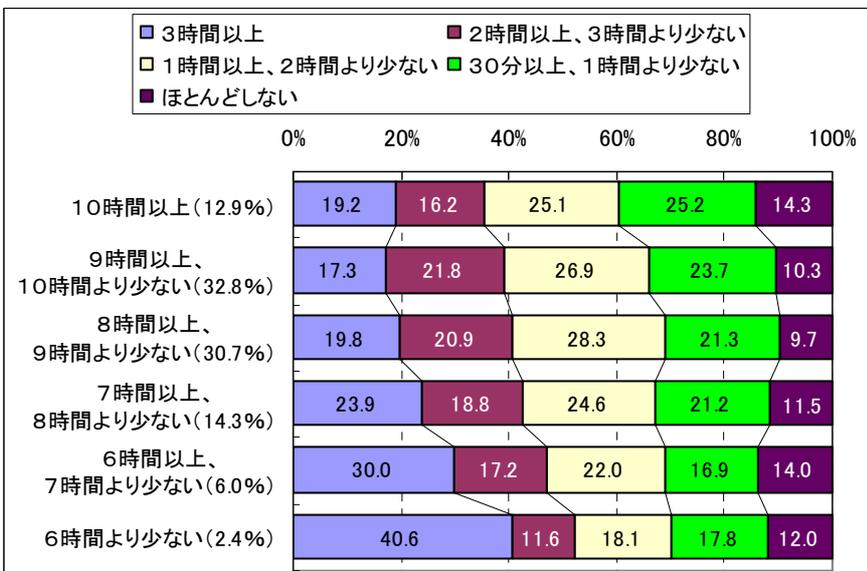
17 睡眠時間【問 24】 × 朝食の摂取【問 25】



○睡眠時間が10時間以上の場合を除くと、睡眠時間が長い児童ほど、朝食の摂取状況が良好な傾向にある。

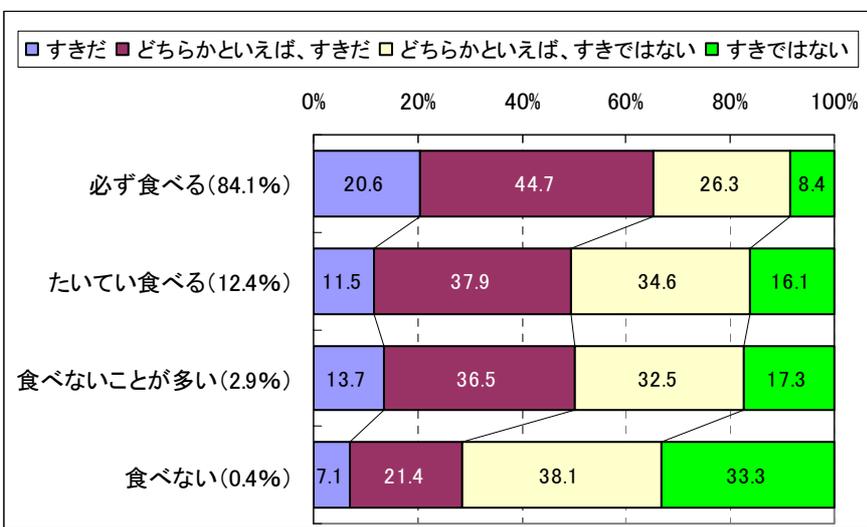
○睡眠時間が「6時間より少ない」と回答した児童のうち、朝食を「必ず食べる」と回答した児童は54.7%である。

18 睡眠時間【問 24】 × テレビ・ビデオ・ゲームの視聴・実施時間（平日）【問 27】



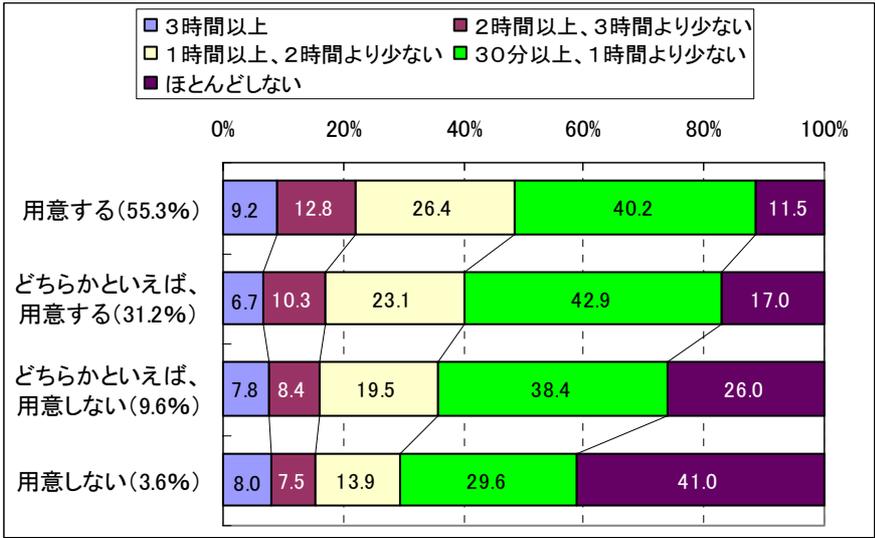
○睡眠時間が「10時間以上」と回答した児童を除くと、睡眠時間が短いほど、テレビの視聴時間などが「3時間以上」、「ほとんどしない」と回答した児童の割合が増え、「2時間以上、3時間より少ない」、「1時間以上、2時間より少ない」、「30分以上、1時間より少ない」と回答した児童の割合は減る傾向にある。

19 朝食の摂取【問 25】 × 学習に対する好感度【問 2】



○朝食を「必ず食べる」と回答した児童のうち、勉強が「すきだ」、「どちらかといえば、すきだ」と回答した児童の割合は65.3%であるのに対して、「食べない」と回答した児童のうち、勉強が「すきだ」、「どちらかといえば、すきだ」と回答した児童の割合は28.5%である。

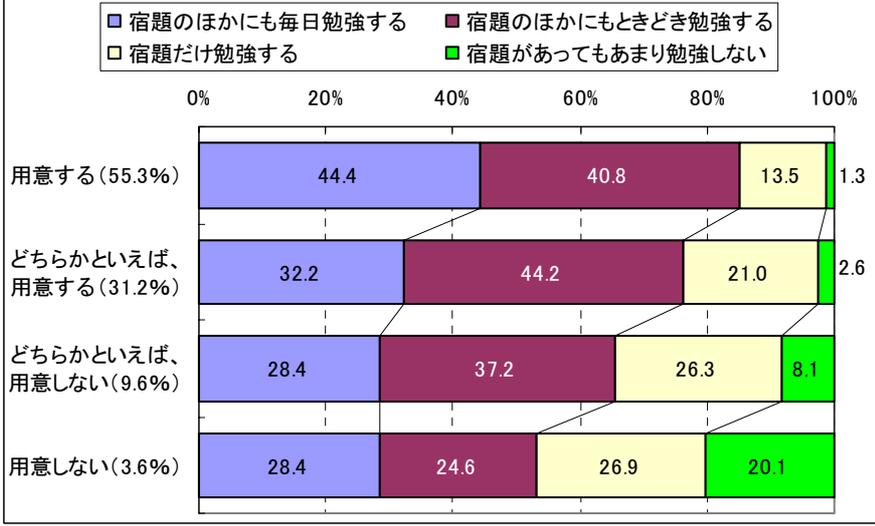
20 学習の準備【問 26】 × 家庭学習時間（平日）【問 20】



○前日に学校の持ち物を用意する児童ほど、家庭学習をしている傾向がある。

○「用意しない」と回答した児童のうち、家庭学習を「ほとんどしない」と回答した児童の割合は41.0%である。

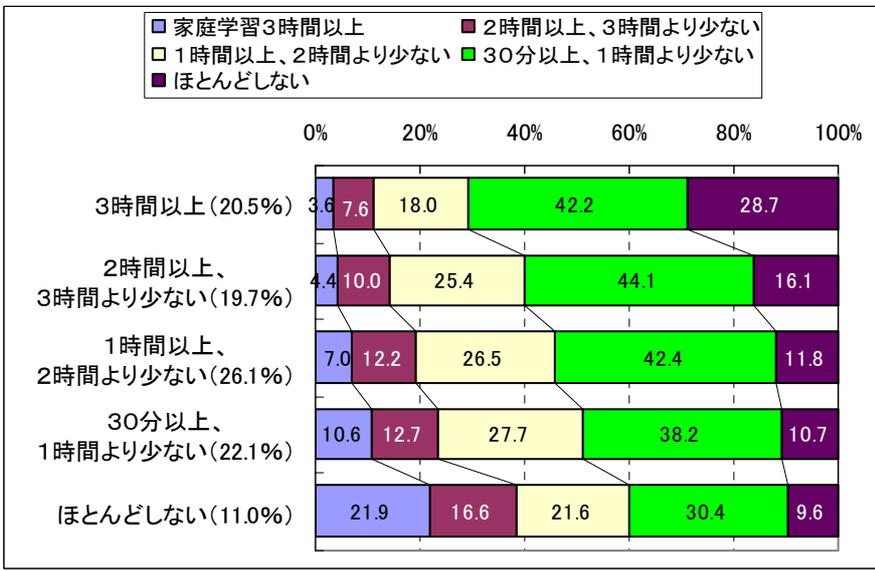
21 学習の準備【問 26】 × 家庭学習の内容【問 22】



○前日に学校の持ち物を用意する児童ほど、家庭で宿題のほかに勉強している傾向がある。

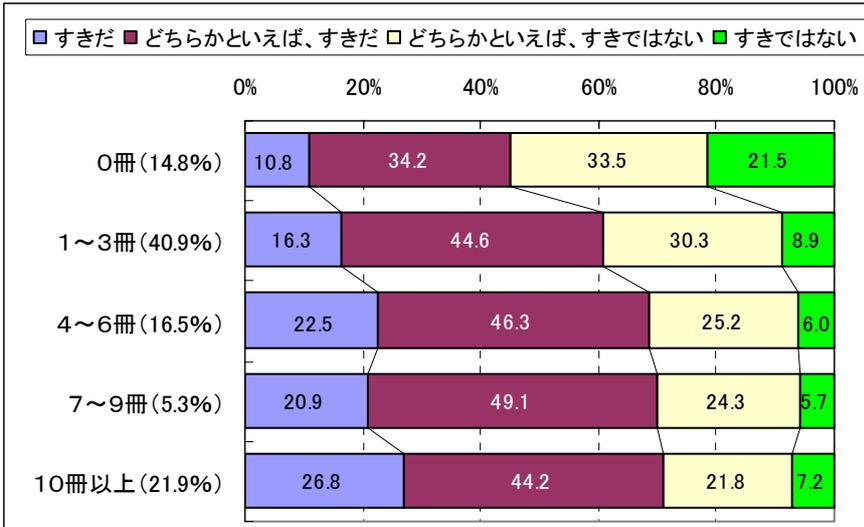
○「用意しない」と回答した児童のうち、「宿題があってもあまり勉強しない」児童の割合は20.1%である。

22 テレビ・ビデオ・ゲームの視聴・実施時間【問 27】 × 家庭学習時間（平日）【問 20】



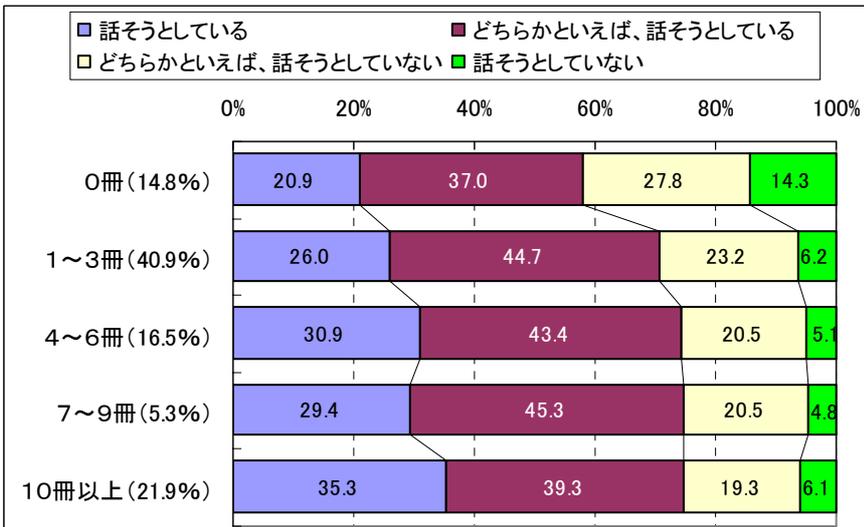
○テレビの視聴時間などが短い児童ほど、平日の家庭学習の時間において「3時間以上」、「2時間以上、3時間より少ない」の割合が高くなり、逆に、長い児童ほど、家庭学習を「ほとんどしない」割合が高くなる。

23 1ヶ月の読書量【問30】×学習に対する好感度【問2】



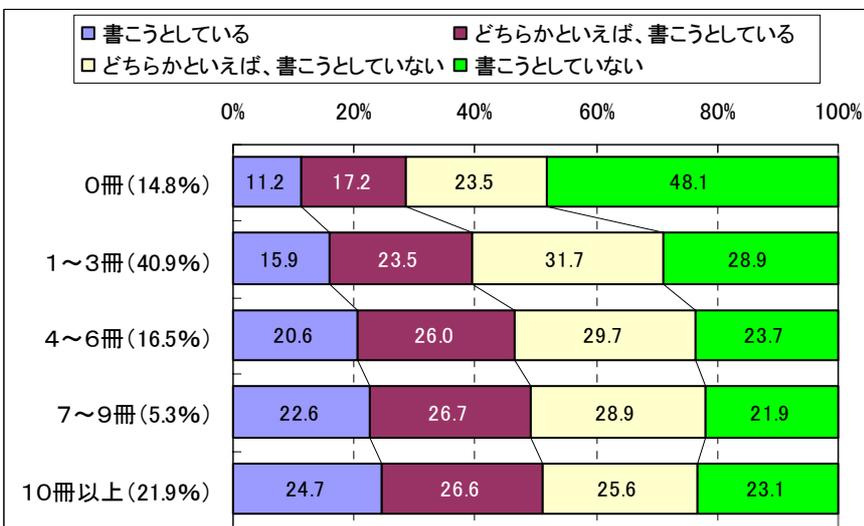
○1ヶ月の読書量が多いほど、勉強が「好きだ」と回答する傾向がある。
 ○1ヶ月の読書量が0冊と回答した児童の55.0%が勉強が「好きではない」、「どちらかといえば、好きではない」と回答している。

24 1ヶ月の読書量【問30】×思いや考えを話そうとする意欲【問32】



○1ヶ月の読書量が多いほど、自分の思いや考えを「話そうとしている」と回答する傾向がある。
 ○1ヶ月に1冊も本を読まない児童のうち、42.1%が、自分の思いや考えを「話そうとしない」、「どちらかといえば、話そうとしない」と回答している。

25 1ヶ月の読書量【問30】×思いや考えを書こうとする意欲【問33】



○1ヶ月の読書量が多いほど、自分の思いや考えを文章に「書こうとしている」、「どちらかといえば、書こうとしている」と回答する児童の割合が高い。
 ○1ヶ月に1冊も本を読まない児童のうち、71.6%が自分の思いや考えを「書こうとしない」、「どちらかといえば、書こうとしない」と回答している。

資料 調査結果集計表

(数字はすべて%)

【共通】

問1 学校生活は、楽しいですか。

	楽しい	どちらかといえば、 楽しい	どちらかといえば、 楽しくない	楽しくない	無回答
H21	57.3	34.0	6.0	2.4	0.3
H22	58.9	33.1	5.6	2.3	0.1
H23	59.1	32.9	5.7	2.2	0.1

問2 勉強は、好きですか。

	すきだ	どちらかといえば、 すきだ	どちらかといえば、 すきではない	すきではない	無回答
H21	17.9	42.9	28.4	10.5	0.3
H22	19.6	43.4	27.4	9.5	0.1
H23	19.2	43.4	27.6	9.7	0.1

問3 勉強をすることは、大切なことだと思いますか。

	大切だ	どちらかといえば、 大切だ	どちらかといえば、 大切ではない	大切ではない	無回答
H21	73.2	24.0	1.8	0.7	0.3
H22	74.4	23.4	1.5	0.7	0.1
H23	73.8	23.8	1.6	0.7	0.1

問4 勉強をする一番の理由は何ですか。

	わかると楽しいから	受験に役に立つから	将来の仕事に役に立つから	生活するのに役に立つから	ほめてもらえるから	家の人やまわりの人にいわれるから	無回答
H21	23.4	10.6	36.7	22.5	2.1	4.1	0.6
H22	24.0	10.1	38.8	20.8	2.3	3.5	0.4
H23	24.1	11.0	38.7	19.6	2.3	3.9	0.4

問5～9 次の学習は好きですか。

		すきだ	どちらかといえ ば、すきだ	どちらかといえ ば、すきではない	すきではない	無回答
国語	H21	27.9	37.5	23.3	10.4	0.8
	H22	29.2	40.2	21.8	8.2	0.6
	H23	28.9	39.6	22.1	8.7	0.7
社会	H21	24.2	33.8	26.5	14.5	1.0
	H22	26.2	34.6	26.5	12.1	0.6
	H23	23.4	34.0	28.3	13.4	0.8
算数	H21	40.0	29.3	17.4	12.1	1.3
	H22	35.8	29.6	19.6	14.1	0.9
	H23	35.3	30.2	19.7	13.7	1.0
理科	H21	51.8	31.1	10.9	4.4	1.8
	H22	51.7	31.7	10.9	4.5	1.1
	H23	51.6	31.3	11.0	4.6	1.5
総合	H21	42.6	37.6	12.7	4.9	2.2
	H22	42.8	37.9	12.8	4.5	1.9
	H23	41.5	38.3	13.4	4.6	2.1

問 10～13 次の授業は、よくわかりますか。

		わかる	どちらかといえば、わかる	どちらかといえば、わからない	わからない	無回答
国語	H21	53.6	35.8	7.7	2.2	0.7
	H22	55.9	35.2	6.7	1.8	0.5
	H23	54.7	36.0	6.8	2.0	0.5
社会	H21	42.9	38.6	13.9	3.8	0.8
	H22	44.6	39.2	12.6	3.0	0.7
	H23	40.4	39.8	15.3	3.8	0.6
算数	H21	55.8	29.2	10.6	3.7	0.7
	H22	50.4	32.0	11.9	5.1	0.6
	H23	51.4	31.5	12.2	4.3	0.6
理科	H21	60.7	32.1	5.2	1.3	0.7
	H22	62.3	30.4	5.5	1.2	0.6
	H23	61.9	30.7	5.5	1.3	0.5

問 14～18 授業で学んだことは、生活の中で役に立っていると思いますか。

		役に立つ	どちらかといえば、役に立つ	どちらかといえば、役に立たない	役に立たない	無回答
国語	H21	60.0	29.9	7.2	2.2	0.7
	H22	60.6	30.7	6.1	2.1	0.6
	H23	59.6	31.1	6.5	2.1	0.6
社会	H21	53.6	33.4	9.6	2.5	0.8
	H22	55.5	32.8	8.6	2.4	0.6
	H23	54.4	33.1	9.0	2.8	0.7
算数	H21	74.3	20.0	3.4	1.5	0.8
	H22	73.8	20.6	3.4	1.4	0.7
	H23	74.0	20.4	3.3	1.5	0.8
理科	H21	45.4	37.6	12.2	3.4	1.4
	H22	46.9	36.8	12.4	3.0	0.9
	H23	46.6	37.7	11.5	3.0	1.1
総合	H21	44.6	36.4	11.9	3.9	3.2
	H22	46.2	36.7	10.6	3.7	2.8
	H23	44.8	37.4	11.1	3.7	3.0

問 19 授業の中で、わからないことがあったら、どうすることが多いですか。

	その場で先生にたずねる	授業が終わってから先生にたずねる	友だちにたずねる	家の人にたずねる	じゆくや家庭教師の先生にたずねる	自分で調べる	そのままにしておく
H21	42.1	26.6	63.8	68.8	14.6	47.3	24.9
H22	43.8	28.4	65.4	71.6	15.5	47.5	23.8
H23	41.7	26.7	64.6	70.9	15.5	47.4	21.2

問 20 学校のある日、家で1日どのくらい勉強しますか。

	3時間以上	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	ほとんどしない	無回答
H21	7.5	10.4	23.0	38.3	19.0	1.7
H22	8.4	10.9	24.7	38.7	16.3	0.9
H23	8.1	11.3	24.0	40.0	15.5	1.1

II 調査結果の概要

問 21 学校が休みの日、家で1日どのくらい勉強しますか。

	3時間以上	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	ほとんどしない	無回答
H21	11.5	10.6	18.5	31.0	27.1	1.3
H22	12.0	11.9	20.5	31.0	23.6	0.9
H23	12.3	11.5	20.4	31.6	23.4	0.9

問 22 ふだん、家でしている勉強は、どれに近いですか。

	宿題のほかに毎日勉強する	宿題のほかにときどき勉強する	宿題だけ勉強する	宿題があってもあまり勉強しない	無回答
H21	35.0	40.7	19.4	3.4	1.5
H22	37.1	41.2	17.7	3.1	0.9
H23	38.0	40.5	17.4	3.0	1.1

問 23 学習じゆくに、通っていますか。

	通っている	通っていない	無回答
H21	51.4	46.7	2.0
H22	51.2	47.5	1.4
H23	51.5	47.3	1.2

問 24 学校がある日の、睡眠時間はどれくらいですか。

	10時間以上	9時間以上、10時間より少ない	8時間以上、9時間より少ない	7時間以上、8時間より少ない	6時間以上、7時間より少ない	6時間より少ない	無回答
H21	13.0	32.1	30.7	14.3	6.3	2.6	1.0
H22	12.3	32.9	30.0	15.6	5.9	2.4	0.8
H23	12.9	32.8	30.7	14.3	6.0	2.4	0.9

問 25 毎日、朝食を食べますか。

	必ず食べる	たいてい食べる	食べないことが多い	食べない	無回答
H21	82.5	12.8	3.4	0.8	0.4
H22	83.3	12.9	3.1	0.6	0.1
H23	84.1	12.4	2.9	0.4	0.2

問 26 学校に持って行くものは、前日にきちんと用意しますか。

	用意する	どちらかといえば、用意する	どちらかといえば、用意しない	用意しない	無回答
H21	56.3	28.9	9.8	4.4	0.5
H22	55.8	30.7	9.7	3.6	0.2
H23	55.3	31.2	9.6	3.6	0.3

問 27 学校のある日、家でどのくらいテレビやビデオを見たり、ゲーム機で遊んだりしていますか。

	3時間以上	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	ほとんどしない	無回答
H21	22.1	20.7	25.6	20.0	10.8	0.8
H22	19.9	20.4	26.5	21.7	11.0	0.5
H23	20.5	19.7	26.1	22.1	11.0	0.5

問 28 学校が休みの日、家でどのくらいテレビやビデオを見たり、ゲーム機で遊んだりしていますか。

	3時間以上	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	ほとんどしない	無回答
H21	32.8	21.8	22.4	14.5	7.6	1.0
H22	30.9	21.4	24.3	15.2	7.9	0.3
H23	31.5	21.7	23.4	15.2	7.7	0.5

問 29 自分専用の携帯電話を持っていますか。

	持っている	持っていない	無回答
H22	34.5	65.3	0.2
H23	34.7	64.9	0.4

問 30 月に何さつぐらい本（マンガ・雑誌をのぞく）を読みますか。[*31冊以上の回答は集計から除外]

	0冊	1～3冊	4～6冊	7～9冊	10冊以上	無回答	平均冊数
H21	16.5	42.4	16.8	5.2	17.8	1.3	4.7
H22	14.2	42.4	17.2	5.7	20.2	0.3	5.1
H23	14.8	40.9	16.5	5.3	21.9	0.6	5.4

【国語】

問 31 わからない言葉があるときは国語辞典（電子辞書をふくみます）を使いますか。

	よく使う	どちらかといえば、よく使う	どちらかといえば、あまり使わない	あまり使わない	無回答
H21	24.0	31.3	25.7	18.5	0.5
H22	25.4	32.8	25.4	16.2	0.2
H23	26.2	33.4	24.5	15.6	0.2

問 32 日常生活の中で、自分の思いや考えを積極的に話そうとしていますか。

	話そうとしている	どちらかといえば、話そうとしている	どちらかといえば、話そうとしていない	話そうとしていない	無回答
H21	24.8	40.9	25.2	8.6	0.6
H22	27.2	41.8	23.8	7.0	0.2
H23	28.4	41.9	22.3	7.1	0.3

問 33 日記を書くなど、自分の思いや考えを文章に書こうとしていますか。

	書こうとしている	どちらかといえば、書こうとしている	どちらかといえば、書こうとしていない	書こうとしていない	無回答
H21	16.6	22.0	28.1	32.7	0.6
H22	18.0	22.8	29.2	29.9	0.1
H23	18.4	23.8	28.5	29.1	0.3

【社会】

問 34 わからない地名に出会ったら、自分で地図帳などを使って調べますか。

	調べようとしている	どちらかといえば、調べようとしている	どちらかといえば、調べようとしていない	調べようとしていない	無回答
H21	29.8	32.4	22.2	15.1	0.6
H22	30.0	33.4	22.8	13.7	0.2
H23	26.6	33.0	25.0	15.2	0.2

問 35 歴史上の人物やできごとをあつかっている本を読むことは好きですか。

	すきだ	どちらかといえば、すきだ	どちらかといえば、すきではない	すきではない	無回答
H21	27.2	24.0	25.2	23.1	0.5
H22	28.9	24.0	25.3	21.7	0.1
H23	27.3	24.4	25.7	22.3	0.3

II 調査結果の概要

問 36 社会のできごとやニュースに関心がありますか。

	関心がある	どちらかといえば、 関心がある	どちらかといえば、 関心がない	関心がない	無回答
H21	34.3	39.6	17.5	8.0	0.6
H22	29.0	38.3	22.2	10.4	0.1
H23	31.8	40.0	19.6	8.4	0.2

【算数】

問 37 算数の時間に、いろいろな考え方を発表しあうことは好きですか。

	すきだ	どちらかといえば、 すきだ	どちらかといえば、 すきではない	すきではない	無回答
H21	25.0	28.5	30.1	15.7	0.6
H22	24.1	28.5	30.9	16.3	0.1
H23	23.8	29.1	30.5	16.3	0.3

問 38 問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか。

	考えようとしてい る	どちらかといえば、 考えようとしてい る	どちらかといえば、 考えようとしてい ない	考えようとしてい ない	無回答
H21	25.2	33.7	26.4	14.0	0.6
H22	26.0	34.5	25.5	13.9	0.2
H23	26.4	34.3	25.5	13.5	0.3

問 39 問題が解けなかったとき、なぜ解けなかったかをふり返って考えようとしていますか。

	考えようとしてい る	どちらかといえば、 考えようとしてい る	どちらかといえば、 考えようとしてい ない	考えようとしてい ない	無回答
H21	26.4	35.6	23.7	13.6	0.6
H22	27.1	36.6	23.4	12.8	0.1
H23	27.7	37.5	22.7	11.8	0.3

【理科】

問 40 理科の勉強で、実験や観察をすることは好きですか。

	すきだ	どちらかといえば、 すきだ	どちらかといえば、 すきではない	すきではない	無回答
H21	69.0	21.3	6.2	2.8	0.7
H22	69.6	21.1	6.1	3.0	0.2
H23	68.1	21.6	7.0	3.1	0.3

問 41 理科の勉強で、わからないことや興味・関心をもったことについて自分から調べようとしていますか。

	調べようとしてい る	どちらかといえば、 調べようとしてい る	どちらかといえば、 調べようとしてい ない	調べようとしてい ない	無回答
H21	27.1	36.4	26.1	9.7	0.7
H22	27.9	37.8	25.1	9.1	0.1
H23	27.7	38.5	25.1	8.4	0.3

問 42 自然や理科についての読み物や図かん、テレビ番組などをよくみていますか。

	よくみている	どちらかといえば、 よくみている	どちらかといえば、 あまりみしていない	あまりみしていない	無回答
H21	25.8	27.0	27.0	19.5	0.7
H22	29.1	27.0	26.7	17.1	0.2
H23	29.5	28.2	26.4	15.6	0.3

【総合的な学習】

問 43 自分の興味や疑問をもったことを自分のやり方で学習できていると思いますか。

	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	どちらかといえば、 そう思わない	思わない	無回答
H21	19.9	44.4	26.4	8.6	0.7
H22	20.0	45.6	26.4	7.8	0.1
H23	21.4	45.8	25.7	6.9	0.3

問 44 情報の集め方や調べ方がわかるようになったと思いますか。

	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	どちらかといえば、 そう思わない	思わない	無回答
H21	31.3	41.9	19.2	6.8	0.7
H22	32.6	42.9	18.0	6.4	0.2
H23	32.2	42.5	18.9	6.0	0.3

問 45 自分が興味をもったことをもっと調べてみたいと思うことがありますか。

	思うことがある	どちらかといえば、 思うことがある	どちらかといえば、 思うことはない	思うことはない	無回答
H21	43.6	32.3	16.2	7.2	0.7
H22	47.5	31.3	15.4	5.7	0.2
H23	46.8	32.7	14.7	5.5	0.3

